

令和7年度（令和6年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

令和7年9月

網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、令和6年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

令和7年9月

網走市教育委員会 教育長 木野村 寧

目 次

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	1
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	「令和6年度教育行政推進方針」についての点検	2
1	総評	2
2	事業の点検	2
	[学校教育の推進]	
1	幼児期に身につけるべき基礎の育成	2
2	確かな学力の育成	3
3	豊かな人間性の育成	6
4	健やかな体の育成	8
5	支援が必要な子どもに対する教育体制の充実	11
6	学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	14
7	学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現	17
	[社会教育の推進]	
1	生涯学習	22
2	社会教育	29
3	家庭教育	37
4	芸術文化	39
5	文化財	49
6	スポーツ	50
7	国際化対応	58
III	教育委員会の活動状況	60
1	教育長及び教育委員の就任状況	60
2	教育委員会議の開催状況	60
3	その他の主な活動	62
4	教育委員による自己点検	63
IV	外部評価報告書	67
1	学校教育	67
2	社会教育	72

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、平成20年度から、全ての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第26条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

令和6年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

令和6年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け、教育委員会において実際に管理・執行している事務として、令和6年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取組実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により令和6年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、北海道教育大学旭川校 学校臨床教授 吉田昌広氏と、元網走市社会教育委員 岡山一枝氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」「網走市教育行政推進方針」「令和6年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ 「令和6年度教育行政推進方針」についての点検

教育行政推進方針は、毎年、網走市議会第1回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

令和6年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

1 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えます。

2 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

1 幼児期に身につけるべき基礎の育成

項目	幼保小連携事業（継続）
目的	子どもが円滑に小学校生活を始められるよう、幼児と小学校児童との交流を充実させるとともに、教職員間で情報交流の促進を図る。
取組実績	・1日体験入学の実施 ・学校行事の合同開催（運動会・防災訓練） ・教育支援委員会の開催（令和6年10月8日、令和6年12月16日） ・教育相談会の実施（新就学児童相談申込者32名）
成果	小学校への円滑な接続が図られている。
課題	特別支援を必要とする児童の数は年々増加傾向にある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、小学校への円滑な接続に努めていく。

2 確かな学力の育成

項 目	学力向上対策事業（継続）
目 的	児童生徒の学力の実態を把握するとともに、効果的な授業や対応を推進し、学力の向上を図る。
取組実績	・比較、分析が可能な学力テストの実施：小学校 934 千円、中学校 925 千円
成 果	毎年度所要額を予算措置することにより、学力の継続的把握が可能となった。
課 題	継続して実施し、分析していく中で、効果的な指導法等の改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	小中学校教材教具費（2事業）（継続）
目 的	小中学校の教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教師用指導書、教科書の購入 小学校 22,136 千円、中学校 0 千円 ・教材の購入 小学校 7,534 千円、中学校 7,934 千円 ・通知表印刷費 小学校 296 千円、中学校 133 千円 ・ふるさと教育にかかる流氷館入場料 小学校 54 千円、中学校 0 千円 ・地域体験活動費 小学校 283 千円、中学校 376 千円 ・知能検査実施 小学校 171 千円、中学校 0 千円 ・教職員被服貸与 小学校 79 千円、中学校 105 千円 ・卒業証書印刷費 小学校 135 千円、中学校 134 千円 ・社会科副読本印刷費 小学校 0 千円
成 果	毎年度所要額を予算措置することにより、教材教具の整備・充実が図られている。
課 題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	小中学校デジタル教材教具費（2事業）（継続）
目 的	小中学校のデジタル教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリル、指導者用及び学習者用デジタル教科書の整備 小学校 3,521 千円、中学校 1,445 千円 ・デジタルドリルライセンス、Web アプリケーションライセンスの購入 小学校 2,512 千円、中学校 1,468 千円
成 果	毎年度所要額を予算措置することにより、教材教具の整備・充実が図られている。
課 題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置〕（継続）
目的	小学校及び中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「外国語指導助手（ALT）」を配置し、生きた英語に触れることにより、児童生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手（ALT）の配置（2名）による市内全小中学校への訪問、指導 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・英語能力コンテスト等への協力 ・地域における国際交流への協力
成果	ALTの生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られた。
課題	学校との連携を強め、各校の教育課程に応じた、より効果的なALTの関わり方の検討が必要。
今後の方向性	引き続きALT2名体制を維持していく。

項目	魅力あふれる授業づくり事業（継続）
目的	学力向上推進講師を招聘し、指導・助言を受けることで市内校の授業改善を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中央小公開研究会（令和6年10月4日） 講師：樺山 敏郎氏（大妻女子大学家政学部児童学科教授） ・白鳥台小公開研究会（令和6年10月11日） 講師：奈須 正裕氏（上智大学総合人間学部教育学科教授） 佐野 亮子氏（東京学芸大学非常勤講師） ・南小公開研究会（令和6年11月20日） 講師：樺山 敏郎氏（大妻女子大学家政学部児童学科教授）
成果	学力向上推進講師の指導・助言により授業改善が図られた。
課題	市全体の取組となるよう、未実施校での取組を進める必要がある。
今後の方向性	引き続き、授業改善を図っていく。

項目	学習支援員配置事業（継続）
目的	市費負担による算数・数学における学習支援員を配置し、TT（チーム・ティーチング）指導・習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	・退職した教員や、免許所有者を会計年度任用職員として任用し、小学校4校、中学校2校に配置し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成果	きめ細かな指導が可能となり、基本・基礎の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課題	道教委加配による少人数指導と連携した、より効果的な活用法の検討が必要。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

項 目	あばしり寺子屋開催事業（継続）
目 的	小学1～6年生を対象に学生ボランティアによる学習サポートを行い、参加児童にとって必要な学力を見極め、「わかる喜びやできる喜び」を体得させることを通して、学習習慣の定着や学力の向上など、「確かな学力」を身につけさせる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・東京農業大学生物産業学部 学生ボランティア 延べ人数：119名 ・実施回数10回（5/25、6/17、7/6、7/27、8/24、9/28、10/26、11/9、11/16、12/7） ・延べ参加人数：1年生2名、2年生18名、3年生27名、4年生0名、5年生6名、6年生41名 計94名
成 果	学生ボランティアのサポートにより、参加児童の学習意欲向上が図られた。
課 題	参加児童を増加させる仕組みや効果的な周知方法の検討が必要。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の学力向上に努める。

3 豊かな人間性の育成

項目	小中学校図書館図書整備事業（2事業）（継続）
目的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数及び鮮度を考慮し、各学校へ予算を配当：小学校 2,910 千円、中学校 1,940 千円 ・学校図書館で利用する消耗品の購入費として、各校 10 千円を配当
成果	毎年度所要額を予算措置することにより、図書の整備・充実が図られた。 小学校 2,533 冊購入、中学校 1,222 冊購入
課題	図書の劣化や破損に対する対応や必要な古書の見極めが必要である。
今後の方向性	令和 6 年度末の図書整備基準冊数達成率は、小学校全体で 117.6%、中学校全体で 102.8%となっている。引き続き基準冊数を保持しながら、鮮度を考慮した古書・毀損（きそん）図書の更新に努める。

項目	学校図書館司書の配置（継続）
目的	学校図書館司書を配置し、図書館整備・活用を推進することにより、児童生徒の読書への関心を高め、学力の向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・司書資格を有する者を配置することにより、学校図書館資料の管理や整理、児童生徒に対する読み聞かせ、学校図書館に関する教育指導への支援を行う。 ・平成 25 年度から学校図書館司書 1 名を小学校 3 校にモデル的に巡回配置。平成 27 年度は 3 名体制として司書教諭不在の状況を解消。平成 29 年度よりさらに増員して 4 名体制として、司書教諭配置校にも巡回を行い、読書への関心を高める取組を推進している。
成果	図書の整理・分類整備が進み、児童生徒の読書への関心が高められた。
課題	引き続き、児童生徒の読書への関心を向上させるための取組が必要である。
今後の方向性	今後も全ての学校へ巡回配置を行い、事業を継続していく。

項目	網走市子ども会議の実施（継続）
目的	いじめの根絶や命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめ問題への取組の一層の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年 2 月 15 日に開催。児童会や生徒会等がいじめ問題の解決や人間関係づくりに取り組んだ内容の交流、また「誰もが心地よく、安心して楽しい学校生活を過ごすことができるか」についての意見交流を行った。 ・参加児童生徒数：小学校 18 名 中学校 12 名 ・東京農大生（ファシリテーター）数：6 名
成果	他校の取組を知ることで、自校での課題解決活動のきっかけづくりとなった。
課題	テーマを限定せず、今日的な教育的課題や子どもたちの関心があることなどについて、会議内容の検討が必要である。
今後の方向性	児童生徒の意識啓発や自発的な課題解決に向けた機会として、引き続き実施する。

項目	学校教育指導奨励諸補助負担金〔合同観劇事業補助〕（継続）
目的	児童に優れた芸術文化を鑑賞させることにより、豊かな表現力と情操教育の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網走市合同観劇実行委員会が実施する網走市内小学校合同観劇事業に対し、児童の鑑賞料金を補助 ・ 事業内容 株式会社ヒトココチ ひのき屋による「わいわい音楽会」の鑑賞（8会場） ・ 参加児童数 1,231名
成果	優れた芸術に触れることで児童の感性を高め、豊かな情操や多様な価値観を養うことができ、様々な表現を学ばせることで、子どもの表現活動に生かすことができた。
課題	豊かな表現力と情操教育の充実を図るため、年齢に応じた鑑賞方法の検討が必要である。
今後の方向性	引き続き実施する。

項目	いじめ対策事業（拡充）
目的	いじめの実態を把握し、未然防止、早期発見・対応に向けた指導・助言を行うとともに、児童生徒に対する「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの意識醸成を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめに関する調査の実施（年2回） ・ いじめ防止啓発資料の作成 ・ 市内小中学校のいじめ対策への支援、相談カードの配布（小学1・3・5年生、中学1・3年生） ・ いじめ問題調査委員会の運営 ・ いじめ相談報告アプリ「STANDBY」の導入（対象：小学4年生以上の児童生徒） ・ いじめゼロを目指す講演会の開催（令和6年10月20日/エコーセンター）
成果	いじめ問題の取組についての普及・啓発が図られた。
課題	全ての児童生徒が「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの理解を深めるとともに、保護者を含めた全市のいじめ撲滅の意識醸成が必要である。
今後の方向性	いじめ問題克服のため、学校全体が組織的にいじめの未然防止に向け、いじめを許さない環境づくりと、関係機関が一体となり継続的に取り組むとともに、児童生徒がためらわず相談できる環境づくり、全市のいじめ撲滅の意識醸成を図る。

4 健やかな体の育成

項目	学校プール管理事業（継続）
目的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校9校のうち5校で実施(中央小、西小、南小、東小、白鳥台小) ※網走小、潮見小、呼人小は市民健康プール、西が丘小は西地域プールで授業実施 ・プール管理人を各校1名配置し、日常点検（水質、水温、室温等）を実施（委託先：シルバー人材センター） ・定期検査の実施(学校薬剤師と市職員で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等を点検) ・プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施
成果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	施設の老朽化が進んでおり、施設維持のためのメンテナンスが課題である。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童生徒の心身の健全な発達を図る。
取組実績	・スケートリンク等設置に対する補助 2校(白鳥台小、西が丘小)
成果	スケート授業等の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	スケートリンク等の造成はPTAの方々による協力が必要となり、リンクの造成作業などに大きな負担がかかっている。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる子どもたちの心身の健全な発達を図っていく。

項目	学校給食施設の改修〔調理場冷房ほか施設整備〕（新規）
目的	安全・安心でおいしい学校給食を提供するため、給食室設備の改修や維持管理を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・設備・備品の主な改修及び修繕の実施状況 西部地区共同調理場空調設備改修工事 (13,220千円) 南地区共同調理場石油給湯器取替工事 (528千円) 向陽ヶ丘区共同調理場床暖房送水温度調節計取替工事 (413千円) 等
成果	<p>衛生管理に努め、健やかな身体の成長を図るための、安全・安心でおいしい学校給食を児童生徒に提供することができた。</p> <p>学校給食従事職員の職場環境の改善を図ることができた。</p>
課題	改修財源の確保が必要である。
今後の方向性	学校給食施設の老朽化が進んでおり、学校施設等改修計画を基本としながら学校給食施設の今後のあり方の検討を進める。

項目	学校給食運営の充実〔備品の整備、衛生管理〕（拡充）
目的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・設備・備品の主な修繕及び更新の実施状況 南地区共同調理場炊飯器購入（2,607千円） 向陽ヶ丘地区共同調理場学校給食用食器購入（3,080千円）等 ・学校給食従事職員研修会（年1回） ・学校給食衛生管理基準に基づく定期検査（年3回/市教委実施） ・学校給食施設立入調査（年1回/保健所実施） ・給食調理員等の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施 ・児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応
成果	衛生管理に努め、健やかな身体の成長を図るため、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に提供することができた。
課題	児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	給食を安定的に提供するための調理体制の整備に努める。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していく。

項目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。また、地場産物を活用した給食を実施するなど、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭等による食に関する指導（栄養教諭等6名） ・「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施 （ホタテと行者菜のオイスターソース焼きそば、鮭ザンギ、しじみ汁、網走ちゃんぼん） ・地元産業や地場産物への理解を深めるため、希望校においては生産者講話を実施 ・学校給食用パンへ網走産小麦を100%使用 ・鯨食文化の理解を深めるために、鯨肉を使用した給食の実施 ・野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした「野菜の日給食」の実施
成果	食育の推進や地元食材を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。
課題	生産者や流通などの関係機関との連携体制の強化を図る必要がある。
今後の方向性	各学校の栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。また、今後も地元食材を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」を継続して実施していく。

項目	児童生徒の健康管理事業（継続）
目的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 ・在籍する児童生徒を対象とした各種検診の実施 （尿検査、結核検診、脊柱側湾症検査、眼科検診、心臓検診、耳鼻咽喉科検診）
成果	健康診断を実施することにより、児童生徒の健康管理が図られた。
課題	医師会との連携、各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の健康管理の推進に努める。

項目	子ども体力づくりサポート事業（継続）
目的	市内の児童生徒が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、運動習慣の定着や体力づくりの向上に資する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・講師（学校法人日本体育大学）による体育科の示範授業を実施 （令和7年2月3日、第一中） ・教員を対象とした研修会を実施（令和7年2月3日、参加教員：16名）
成果	専門的な指導のもと、児童生徒の体力向上に関する興味関心の増大や、教員の指導方法の向上につなげることができた。
課題	教員の指導方法や児童の体力向上に対する意欲付けなどを市内全校に広げていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の体力向上のための指導改善を図る。

項目	タグラグビー大会の開催（継続）
目的	タグラグビー大会を開催することにより、児童の健全な発達・成長を促し、体力向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・参加児童 小学4年～6年 9チーム 66名 ・開催日時 令和6年10月6日（日）9時45分～12時40分 ・会場 網走スポーツ・トレーニングフィールド
成果	タグラグビーの取組を通して、身体能力の向上、健康的な体づくりに寄与した。
課題	市内全ての小学校が参加できるよう呼びかけていく必要がある。
今後の方向性	網走市ラグビーフットボール協会の協力をいただき、各学校におけるタグラグビーの取組を積極的に行うこととし、今後も継続して大会を開催する。

項目	中学校体育文化振興事業補助（拡充）
目的	生徒が対外試合やコンクール等に参加する場合に、経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、体育・文化活動の振興を図ることを目的とする。
取組実績	・補助実績：11,973千円
成果	学校外における体育・文化活動を通じ、生徒の健全な心身の育成を図り、体育・文化活動の振興に寄与した。
課題	生徒の体育・文化活動の振興のため、補助対象範囲や補助要件の検討が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

5 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

項目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費、施設・備品等整備〕（継続）
目的	特別支援学級、通級指導教室の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育費学校配当：小学校 9 校 2,304 千円、中学校 6 校 960 千円 ・既存特別支援学級教材備品の整備： 小学校 7 校(32 学級) 965 千円（網小、中央小、西小、呼人小、南小、潮見小、東小） 中学校 3 校(8 学級) 506 千円（第二中、呼人中、第四中） ※整備未実施の小学校 2 校、中学校 2 校は、令和 6 年度の要望なし(第五中は要望のみ) ・第二中通級指導教室（新規開設）教材備品の整備：95 千円 ・通級指導教室への教材費等配当：中央小 375 千円、潮見小 165 千円、第二中 65 千円
成果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	増加・多様化する支援の必要な児童生徒に対し、個々の特性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。

項目	特別支援教育研修事業（継続）
目的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援研修会の開催（令和 6 年 9 月 3 日/エコーセンター）参加者 17 名 講師：中央小 竹村さつき教諭 研修内容：教育相談面接、就学措置判断など
成果	担当教員のより専門的な知識の習得と資質の向上が図られた。
課題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項目	特別支援教育支援員の配置（継続）
目的	小中学校の通常学級、特別支援学級における教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個々の適正に応じた柔軟な教育の推進を図るため、指導補助及び運営支援を行う支援員を配置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員配置数：小学校 24 名（網走小 3 名、中央小 3 名、西小 2 名、南小 5 名、潮見小 8 名、東小 1 名、西が丘小 2 名） 中学校 5 名（第一中 1 名、第二中 1 名、呼人中 1 名、第三中 2 名） ・支援内容：特別な支援を要する児童生徒に対する学習支援、健康・安全確保 基本的な生活習慣確立のための日常生活上の介助、学習活動・教室間移動における介助
成果	支援員を配置することにより、特別支援学級等においてより円滑な学級運営が図られた。
課題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、より充実した支援を行うため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあるため、支援員の配置による学校教育全体の支援を継続する。

項目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室の開設（相談員は学校教育部から1名、健康福祉部から2名を配置） ・相談延べ件数：104件
成果	児童生徒及び保護者の不安軽減が図られた。
課題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、日常的な情報交換や対応協議の場を充実し、更に連携を深める必要がある。保護者と情報を共有し、歩調を合わせた児童生徒への指導のあり方が課題である。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・関係機関が連携して適切に対応できるよう相談室の充実を図る。

項目	スクールカウンセラーの配置（継続）
目的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校の児童生徒のスクールカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施 ・相談数：年間361回、1,785時間 ・配置人数：5名
成果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言によりの確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	引き続き、児童生徒へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を行い、学校における教育相談体制の充実を図る。また、令和7年度から、小学校を担当するスクールカウンセラーとして、会計年度任用職員を任用する。

項目	不登校児童生徒への支援の充実〔教育支援センター運営事業〕（拡充）
目的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、適応指導、学習指導などの指導援助を行い集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、教育支援センターを設置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の配置(2名) ・教育支援センター「クリオネ学級」の開設・運営（毎週月～金曜日 午前9時～午後3時） ・通級児童生徒数：令和6年度17名(小学生12名、中学生5名) ※R7.3.31時点
成果	教育相談や適応指導、学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られた。また、施設移転により教室の拡充等学習環境が向上した。
課題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、学校生活への復帰に向けてそれぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさがある。
今後の方向性	指導援助体制の充実を図るとともに、一人でも多くの児童生徒が学校復帰できるように努める。

項目	学級集団状況把握事業〔Q-Uテストを活用した学級集団状況把握〕（継続）
目的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q-Uテスト(楽しい学校生活を送るためのアンケート式心理テスト)の実施 ・ 小学校4校(中央小、呼人小、南小、西が丘小) ・ 中学校3校(第一中、第三中、第五中)
成果	Q-Uテストの結果を学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決が図られた。
課題	問題行動の早期発見や予防につなげるため、実施校や検査実施回数の拡大などの検討が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、より安定した学級経営を目指す。

項目	学校教育専門相談員配置事業（新規）
目的	学校教育専門相談員（会計年度任用職員）を配置し、学校との連携をより密にすることで、不登校やいじめ等の諸問題への指導助言、保護者対応など総合的な支援体制の強化を図り、各校統一的な支援体制を確立する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ、不登校児童生徒及び保護者からの相談対応、教育相談室との情報共有 ・ 要保護児童対策地域協議会、個別ケア会議を通じた学校への指導助言
成果	関係機関との情報共有がスムーズになり、具体的対応に繋がった。
課題	共有された情報を個別のケースに応じた具体的な支援策に繋げるための判断基準やプロセスを明確にする必要がある。
今後の方向性	引き続き、学校や関係機関と連携し、不登校やいじめ等の諸問題への指導助言を行う。

項目	発達障がい児童・生徒相談支援事業（新規）
目的	発達障がい等のある児童・生徒の一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難改善のため、児童・生徒発達指導アドバイザーを小中学校に派遣し、専門的知見による指導・助言のもと、よりよい支援体制の向上を目指す。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣依頼先：丸山芳孝氏（学校法人帯広葵学園） ・ 派遣先：小学校（網走小、中央小、潮見小、東小、白鳥台小、西が丘小） 中学校（第一中、第二中、第三中）
成果	児童・生徒発達指導アドバイザーによる発達支援に関する指導助言により、支援体制の向上が図られた。
課題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	引き続き、児童・生徒発達指導アドバイザーによる児童生徒へのカウンセリングや、教職員及び保護者等への助言・援助などを行う。

6 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

項 目	学校給食費無償化事業（継続）
目 的	児童生徒の保護者の経済的負担を軽減し、子育て支援の充実を図るとともに、安全・安心でおいしい学校給食を安定的に提供する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒数に応じた年間食数分の金額を各調理場へ補助金として交付（補助金交付金額） 桂ヶ岡地区共同調理場 30,619 千円 向陽ヶ丘地区共同調理場 19,510 千円 潮見地区共同調理場 25,761 千円 南地区共同調理場 45,669 千円 西部地区共同調理場 5,950 千円 西小学校給食調理場 6,651 千円
成 果	安全・安心でおいしい学校給食を無償で児童生徒に提供し、保護者の経済的負担を軽減した。
課 題	児童生徒に安全・安心でおいしい学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	引き続き、保護者の経済的負担の軽減を図るため、給食費の無償化を実施していく。

項 目	学校開放運営事業（継続）
目 的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放し、スポーツ及び文化活動の場として活用する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 利用団体：29 団体 延べ利用回数：828 回 開放学校：小学校 7 校（網走小、中央小、南小、西小、潮見小、東小、呼人小） 中学校 4 校（第一中、第二中、第三中、第五中）
成 果	年間を通じて市民の利用があり、スポーツ活動の場となっている。
課 題	利用者が安全に活動できる施設運営と利便性向上策を検討する必要がある。
今後の方向性	スポーツ及び文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。

項 目	コミュニティ・スクール推進事業（継続）
目 的	学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクール（CS）の活動を推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> CS研修会の開催（令和6年10月28日/エコーセンター・参加者60名） 導入校 令和元年度 西部地区学校運営協議会（西が丘小、第五中） 東部三校学校運営協議会（東小、白鳥台小、第四中） 呼人地区学校運営協議会（呼人小、呼人中） 令和2年度 中央、西地区学校運営協議会（西小、中央小、第二中） 網走小学校学校運営協議会 南小学校学校運営協議会 潮見小学校学校運営協議会 第一中学校学校運営協議会 第三中学校学校運営協議会
成 果	学校運営協議会を通じて、地域の方が幅広く関わる場が確保された。
課 題	各校において、地域との連携を深めるための取組内容の充実が必要である。
今後の方向性	引き続き、学校運営協議会の取組の充実を図る。

項目	奨学資金貸付事業（継続）
目的	能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学困難な学生に奨学金及び入学準備金を貸付け、社会の有用な人材を育成することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度資金貸付状況：3件 540,000円 <ul style="list-style-type: none"> 大学・専門課程（月額18千円×2名）2件 432,000円 高校・高等課程（月額9千円×1名）1件 108,000円 償還金収納状況 1,957,864円 <ul style="list-style-type: none"> 現年度分 355,200円（収納率 91.4%） 滞納繰越分 1,602,664円（収納率 17.5%）
成果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課題	貸付償還金の滞納者が増加し、制度の運用に影響が及ばないよう、新規滞納者を増やさない等の収納率向上に向けた取組が必要である。 経済的理由により就学の機会を失うことがないよう、制度の周知を図る必要がある。
今後の方向性	制度の周知を積極的に行い、利用の拡大を図っていく。

項目	大学給付型奨学金事業（継続）
目的	向上心があり、学業成績が優秀な学生で、経済的理由により就学困難と認められる者に対し、返済が不要な入学準備金及び奨学金を支給し、社会の有用な人材を育成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> サン育英奨学金 8件 11,100千円 <ul style="list-style-type: none"> ①令和3年度決定者（奨学金150千円×12ヶ月×1名、100千円×12ヶ月×1名=3,000千円） ②令和4年度決定者（奨学金150千円×12ヶ月×2名=3,600千円） ③令和5年度決定者（奨学金150千円×12ヶ月×1名、100千円×12ヶ月×1名=3,000千円） ④令和6年度決定者（入学準備金250千円×2名、奨学金150千円×4ヶ月×1名、100千円×4ヶ月×1名=1,500千円）
成果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課題	企業からの寄附を原資としているため、財源が限られている。
今後の方向性	引き続き、社会に有用な人材を育成します。

項目	学力向上フォーラムの開催（継続）
目的	「オール網走」で学力の向上を目指し、学校・地域・保護者が一体となって、子どもの望ましい成長を考える場とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年12月14日開催（会場：中央小） ワークショップ：9ブース 研修会参加報告：視察報告（視察先：岩手県盛岡市仁王小学校） 講演：『世界から見た日本教育の「これから」』 網走市教育デジタルフェロー 小出 泰久 氏
成果	教職員、保護者、教育関係者等に教育に関する情報を提供することができた。
課題	学校教育への理解を深めるため、地域・保護者の参加者を増やす取組が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、「オール網走」で学力の向上を図っていく。

項 目	小中学校就学奨励事業（継続） ※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目 的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒もしくは入学予定者の保護者に対し就学に要する経費を援助することにより、全ての児童生徒に対する義務教育の円滑な実施に資すること。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、P T A会費、クラブ活動費、オンライン学習通信費の援助 ・要保護者に対する修学旅行費、オンライン学習通信費の援助 ・学校保健安全法第 24 条及び同法施行令第 8 条に定める疾病の治療に要した費用の援助 ・令和 6 年度： 準要保護扶助児童生徒数 322 名 特別支援学級在籍扶助児童生徒数 64 名
成 果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られた。
課 題	保護者負担軽減のため、認定事務の効率化を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

7 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

項目	教員住宅管理事業（継続）
目的	教職員住宅の改修を行い、教職員の住環境を維持する。
取組実績	・主な改修 小学校管理職住宅改修工事（20,735千円） 西が丘小学校管理職住宅改修工事（6,842千円）等
成果	緊急度が高いものから優先的に改修を行い、住環境が整備された。
課題	教員住宅の老朽化が進んでいるため、長寿命化改修など適切な整備の検討が必要である。
今後の方向性	学校施設等改修計画を基本としながら、教員住宅の今後のあり方の検討を進める。

項目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目的	小中学校の適切な管理運営により、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境を維持する。
取組実績	・主な備品購入、業務委託の実施状況 【小学校備品】：潮見小 除雪機(1,018千円)、西が丘小 芝刈機(236千円) 【中学校備品】：第一中・第二中 軽トラック(2,162千円) 【業務委託】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、 廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、貯水槽清掃、トイレ清掃 ・学校配当予算の執行状況 【小学校】需用費 14,297千円、役務費 754千円、備品購入費 1,105千円 合計 16,156千円 【中学校】需用費 10,697千円、役務費 512千円、備品購入費 700千円 合計 11,909千円
成果	学校からの要望等により備品購入及び業務委託を行い、施設の維持が図られた。
課題	学校備品の老朽化が進んでおり、計画的な整備の検討が必要である。
今後の方向性	引き続き予算規模内で備品購入及び業務委託を実施し、児童生徒・教職員の安全・安心な環境づくりを進めていく。

項目	学校改修事業（継続）
目的	学校施設の長寿命化を図り、児童生徒の良好な学習環境を維持する。
取組実績	・中央小 グラウンド排水対策工事（4,675千円） ・南小 砂場改修工事（1,144千円） ・潮見小 グラウンド手摺改修工事（1,254千円） ・第一中 フェンス改修工事（15,923千円） ・第三中 消火ポンプ用呼水槽改修工事（1,793千円）
成果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課題	改修財源の確保が必要である。
今後の方向性	学校施設の老朽化が進んでおり、学校施設等改修計画を基本としながら学校施設の今後のあり方の検討を進める。

項目	学校施設の営繕及び修繕（継続）
目的	小中学校の校舎やグラウンド等の営繕及び修繕を行い、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境を維持する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・主な営繕及び修繕の実施状況 【小学校】 潮見小 屋体床ウレタン補修 (847 千円) 白鳥台小 屋体床ウレタン補修 (462 千円) 西が丘小 屋体床ウレタン補修 (605 千円) 中央小 加圧給水ポンプ取替工事 (2,640 千円) 潮見小 グラウンド改修 (1,242 千円) 【中学校】 第一中 屋体床ウレタン補修 (847 千円) 第二中 暖房集中制御器取替工事 (902 千円) 第五中 グラウンド改修 (1,297 千円)
成果	学校からの要望や耐用年数等から、必要な営繕及び修繕を行い、安全・安心な環境が維持された。
課題	営繕及び修繕財源の確保
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって安全・安心な環境づくりを進めていく。

項目	小中学校冷房設備整備事業（新規）
目的	夏季の猛暑によって教室が高温になり、子どもたちの生命や健康への影響が懸念されることから、各小中学校の普通教室、特別支援教室、職員室、校長室へエアコンを整備することにより学習環境及び職場環境の向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計費（小学校及び呼人中学校） : 8,580 千円 ・工事費（小学校及び呼人中学校） : 375,892 千円 ・エアコン設置台数（小学校及び呼人中学校） : 173 台
成果	令和6年度中に設置を完了し、令和7年度からの学習環境及び職場環境の向上が図られた。
課題	暑さ指数や室温、天候等を考慮して、温度設定など適切な教育環境となるよう運用していく必要がある。
今後の方向性	呼人中学校を除く中学校5校への設置は、令和7年度に実施する。

項目	スクールバス運行事業（拡充）
目的	網走市郊外の東部・南部地区及び西部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・運行体制の見直しを図り、登校路線数を8路線から11路線に拡大、下校路線数を8路線から9路線に拡大 ・小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバス経費の予算を配当（小学校1,272千円、中学校1,022千円） ・学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を実施 ・休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を実施
成果	遠距離通学児童生徒の安全で安定的な通学が確保された。
課題	遠距離通学児童生徒のさらなる利便性の向上を図るため、乗車時間、乗降場所、バスの空席状況などの見直しを図る必要がある。
今後の方向性	今後も継続して、安全・安心な運行体制の維持に努めていく。

項目	子ども安全対策事業〔安全対策、通学路の整備〕（継続）
目的	児童生徒が安全に通学できる通学路の安全対策を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路交通安全等プログラムによる関係機関との合同点検を元に、関係機関と連携し危険箇所について協議・対策を実施 ・新たな危険箇所について学校や関係機関からの聴取
成果	登下校時における児童生徒の安全を確保した。
課題	より効果的な安全対策について検討が必要である。
今後の方向性	今後も通学路の安全対策を図っていく。

項目	部活動指導員の配置（継続）
目的	各競技団体などを通じて推薦のあった地域の外部人材を、市が部活動指導員として任用し中学校に配置することにより、部活動指導の充実と教職員の業務負担軽減を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度：2名配置（第一中 バレーボール指導員1名、第二中 野球指導員1名） 実技指導、大会等の引率などの指導業務を実施 指導回数（2名合計延べ数）年間224回、552時間
成果	生徒の競技力向上による部活動の充実が図られたとともに教職員負担が軽減された。
課題	競技団体の活動状況にもよるが、継続して関わることのできる人材の確保が必要。
今後の方向性	各学校の要望に基づき、引き続き指導員の確保・配置に努める。

項目	部活動あり方検討事業（継続）
目的	少子化により、従来の活動の継続が困難となっている学校部活動のあり方を見直し、子どもたちが将来にわたり各種活動を継続できる環境づくりを目指す。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・検討協議会の開催（7月） ・少年団・文化団体向けアンケート調査の実施
成果	将来的な部活動地域移行に向けた各種課題の整理及び検討を行った。
課題	活動環境の確保、指導人材の確保、活動に要する費用負担など。
今後の方向性	引き続き、学校部活動の地域展開の実現に向け、検討協議会で協議する。

項目	吹奏楽楽器整備事業（継続）
目的	ふるさと寄附を活用し、小中学校の音楽教育を支援すべく吹奏楽における楽器を整備する。
取組実績	・市内小中学校(網走小、第一中、第二中、第三中、第五中)から要望のあった楽器を整備
成果	楽器整備により、各校の老朽化した楽器を更新でき、取り組める楽曲の幅が広がった。
課題	楽器が高価であるため、整備できる規模が限られるとともに、楽器の維持管理の支援も必要である。
今後の方向性	今後も児童生徒の音楽教育の充実を図っていく。

項目	教職員研修事業（継続）
目的	教育課題の解決にあたって、教師の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上を図る。
取組実績	・第50回全日本教育工学研究協議会全国大会への派遣（2名） 開催日：令和6年10月25日（金）～26日（土） 会場：東京都港区 事業内容：協議会への参加、公開授業・研究発表の見学
成果	先進地の取組を視察し、学力向上フォーラムで還元することで、教育の質の向上が図られた。
課題	新学習指導要領への対応など、教育の今日的課題に応じた研修内容の充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	I C T教育研修事業（継続）
目的	GIGA スクール構想における「誰一人取り残すことない、公正に個別最適化された学びの実現」に向けて、教職員の指導力の向上を図る。
取組実績	・一般教員向け I C T活用研修会 2回 ・先進校（岩手県内1校）視察 2名 ・I C T活用推進委員会全体会議 3回 ・I C T活用推進委員会推進チーム会議 1回
成果	学校全体の I C T化が進むことで、教育の質の向上が図られた。
課題	I C Tを「使う」から「活用する」授業実践を推進する必要がある。
今後の方向性	令和7年度より総合学校力向上実践事業と統合し、継続していく。

項目	学校教育研究実践校補助事業（継続）
目的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	・市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助し、各校の公開研究会実施を支援した。
成果	実践指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られたほか、実践研究成果の普及に努めた。
課題	教員の授業力向上が児童生徒の学力向上に結びつくよう研究内容の更なる改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上及び児童生徒の学力向上に努める。

項目	校務支援システム管理事業（継続）
目的	校務支援システムの運用により、各小中学校の校務軽減と情報の共有化を通じて、教育の質の向上を図る。
取組実績	・市内全ての小中学校で教職員の校務用パソコンによる校務支援システム（C4th）を運用
成果	市内全ての小中学校において校務支援システムを活用し、業務の効率化が図られた。 【主な業務内容】学籍管理、出席簿、学校日誌、成績管理、出勤簿機能
課題	全ての教職員が校務支援システムをしっかりと使いこなせるよう、研修やサポートの充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も校務支援システムを活用した業務改善に取り組む。

項 目	学校教職員健康診断事業（継続）
目 的	教職員を対象に疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、健康診断を実施する。
取組実績	・学校に勤務する教職員 207 名の健康診断を実施（うち、要再検者 49 名）
成 果	健康診断を定期的実施することにより、教職員の健康管理が図られている。
課 題	再検査対象者や未検査者に対する健診の勧奨が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の健康管理の推進に努める。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目 的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材教具の整備を図る。
取組実績	・網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対する補助（90 千円）
成 果	教材教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課 題	入学者の確保対策が必要である。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制生徒通学手段確保事業（継続）
目 的	定時制生徒の下校時タクシー乗合利用で、利便性の向上と安全確保を図る。
取組実績	・網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対する補助（3,262 千円） ・実績 延べ 1,684 人利用 利用日数 188 日（実利用人数：22 人）
成 果	夜間の下校時における利便性の向上と安全な下校手段の確保が図られた。
課 題	入学者の確保対策が必要である。
今後の方向性	今後も下校時の安全確保を図っていく。

社会教育の推進

1 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を広げるため、エコーセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民から講師・企画を募りながら市民誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場を創出する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・主 催 あばしりまなび塾フェスティバル実行委員会、網走市教育委員会 ・開催日時 11月23日（水・祝） ・会 場 オホーツク・文化交流センター ・開催内容 出展ブース23、ロビーパフォーマンス4、子どもフリーマーケット16 ・来 場 者 約1,180名（子どもフリーマーケット約820名） ・参加スタッフ 162名
成 果	令和6年度は、10:30～15:30までの開催時間とし実施した。工作や音楽、書道、茶道、測量、空手などを体験学習できるブースを設置して、参加者に学びのきっかけ、ステップアップの機会を提供した。毎年、エコーセンター2000の開館記念日（11/23）に開催しており、市民にも定着したイベントとして、毎年多くの参加を得ている。
課 題	エコーセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、生涯学習活動拡大のため、幅広い周知や参加呼びかけなどを行っていく必要がある。
今後の方向性	個人・サークル等の紹介・発表の場として、市民の生涯学習への取組を喚起する機会として必要な事業であり、実行委員会と十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（継続）
目 的	市民団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し、講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し生涯学習の推進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対 象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5名以上の参加者が見込まれる学習会とし、運営補助的の事業を除く。 ・要 件 開催する場所・時間・形式は問わない。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・支援内容 講師謝金の助成。 ・事業実績 11団体11件 参加者933名（講演会5、ワークショップ6）
成 果	令和6年度は、事業申請11団体中、10団体が新規申請であり、事業の市民への浸透が図られ、市民の学習意欲の喚起に対応した。
課 題	自主的な学習・活動のさらなる推進のために幅広い周知PRが必要
今後の方向性	自主的な学習・活動の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。

項目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目的	市民の学習機会を拡充するため、豊富な経験や知識、技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元の間を提供するとともに、学習者が自ら学ぶ機会を創出するための指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者 21名 ・指導内容 33項目（7部門19分野） ・指導先 まちの達人出前事業講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師 ほか
成果	市民の学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の生涯学習の充実が図られた。また、指導者の学習成果の還元の間として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。
課題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容との適合を意識しながら、登録者の活動機会の提供を進めていく必要がある。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充するとともに、指導者への学習成果還元の間を提供することは登録者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、登録者との意見・情報交換や周知PRなどを行い、今後も引き続き取り組んでいく。

項目	子どもと遊ぼうボランティア隊の登録（継続）
目的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する間の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者 28名 ・登録内容 工作、音楽、料理、裁縫、美術、書道、ガーデニングなど 19種類 ・実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施（24教室、284名参加）
成果	登録された講師により「ロセトクラブ」として、令和6年度は24教室開催となった。
課題	登録者の主体的な取組を推進するため、活動意向や意見を把握する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいております、土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

（2）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより（まちの元気）」を掲載（月1回） ・市ホームページによる情報提供、報道機関への周知・記事掲載 ・登録者へのメールによる情報提供（お知らせメール@あばしり） ・市公式SNS（Facebook、X、LINE）による情報提供 ・小中学校、幼稚園等関係機関への事業チラシ等の配布 ・新聞かわら版を活用しての周知 ・ポスターを作成し市内各所に掲示 ・オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実、館内での講座レポート掲示（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成果	各種媒体の活用により、社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。
課題	より効果的なPR、情報化社会に対応した取組が必要である。
今後の方向性	引き続き、デザインなどの工夫をしながら広報紙等での周知を図っていく。ホームページやSNSなどを活用し、若い世代を含めて広く情報提供に努める。

(3) 生涯学習関連施設の整備、機能向上

項目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目的	オホーツク・文化交流センター設備更新及び修繕を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・空調リモートシステム更新工事 一工区 58,190 千円、二工区 24,090 千円 ・自動ドアモーター等更新工事 1,540 千円 ・展示室クロス張替え工事 1,068 千円
成果	建設後 24 年が経過し、施設の長寿命化対策として、空調リモートシステムの更新、自動ドアモーター等の更新、展示室クロスの更新を実施した。
課題	設備の耐用年数や施設の安全性を考慮し、定期的な保守メンテナンスを実施しながら、計画的に設備・備品の更新を図っていく必要がある。
今後の方向性	エコセンターは、市民の学習、芸術及びレクリエーション活動の場として重要な施設であることから、今後も安全安心な施設利用が出来るよう設備の維持更新に努めていく。

(4) 図書館の充実

項目	図書管理システム機器等更新事業（拡充）
目的	蔵書登録、利用者登録や貸出・返却の管理、書籍の検索など図書館における基幹業務に使用している機器等を更新する。
取組実績	PC・プリンタ等のハード機器及びソフトウェア 1 式を更新
成果	機器の更新により、基幹業務に不可欠な環境を維持することができた。
課題	一定期間経過後の機器更新等の更新
今後の方向性	定期的に更新を行い、基幹業務に不可欠な機器等の維持・管理に努める。

項目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者に幅広く情報を提供することにより多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・資料受入数：図書 3,710 冊（内購入 3,203 冊）、雑誌 871 冊（内購入 654 冊）、視聴覚資料 85 点（内購入 33 点）、地方資料 288 冊（内購入 48 冊） ・図書館蔵書数：R6 年度末 207,309 冊（R6 年度：購入数 3,938 冊、寄贈他 1,016 冊） ・図書貸出人数 25,220 名、貸出冊数 110,759 冊、来館者数（本館）95,529 名
成果	市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。
課題	書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍
今後の方向性	現図書館への移転に伴う購入図書に年数経過による劣化及び陳腐化が生じているため古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。

項目	電子図書整備事業（継続）
目的	市民が来館せずに 24 時間どこでもいつでもインターネットを利用して電子書籍の閲覧、貸出、返却が可能な電子図書館のサービスを提供する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・電子図書数 導入時（令和 2 年 12 月 15 日）2,000 点、令和 6 年度末 5,944 点 ・ID・パスワード申込者数 552 名、利用者数 1,382 名、貸出冊数 5,352 冊
成果	電子図書館サービスにより多様な読書環境を市民に提供することができた。
課題	幅広い年齢層の利用促進
今後の方向性	電子図書館の周知を継続して行い、あらゆる世代が楽しめるような魅力ある資料の収集と、電子図書館の利活用の促進に努める。

項目	地方資料整備事業（継続）
目的	図書館機能を活用した調べものや地域情報整備のため、網走市や北海道など地方に関する資料の収集を図るとともに、一部の資料について電子化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・資料受入数：288冊（うち購入48冊） ・地方資料の電子化 9点 ※電子図書館で閲覧、貸出可能 ・地方紙（新聞）の電子化 ①網走新聞 S22年7月～H16年7月発行分 ②網走新報 S27年1月～S34年12月発行分
成果	地方資料の収集及び劣化の激しい地方資料について電子化が図られた。
課題	資料原本の劣化により電子化に特殊な手法が必要なため、費用が高額
今後の方向性	地方資料の収集を継続するとともに、資料の電子化を計画的に進め、劣化資料の保全を図る。

項目	地域分庫事業（継続）
目的	市立図書館から遠い地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内10箇所の地域分庫の維持管理 ・地域分庫利用者数 884名 貸出冊数 1,226冊 ・「分庫だより」の作成・配布（郊外地区4分庫） ・蔵書の入替え・整備 282冊購入
成果	市内全域にわたる読書機会の充実が図られた。
課題	地域や施設管理者などとの連携強化
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項目	ふるさと学習支援事業（継続）
目的	地域情報の発信を図る図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示の開催（年4回） 第1回「地方資料紹介展」 5/15～30 期間中來場者 3,786名 第2回「映像化された北海道の文学」（道みんの日特別展示） 7/10～7/21 期間中來場者 3,182名 第3回「食を楽しむ北海道」 8/20～29 期間中來場者 3,105名 第4回「流水まつりをたのしもう」 2/1～11 期間中來場者 2,889名 ・「ふるさとあばしりコーナー」を設置し、地方資料を紹介
成果	期間中の來館者に地域課題についての学習機会を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討 ・単発的な展示、紹介から、収集した資料の長期的、系統的なPR方法の検討
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーの資料充実などを通して、市民に対するふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

(5) 読書の普及、読書活動の促進

項目	子供の読書活動推進計画（R7～R11）の策定（新規）
目的	子どもたちが読書活動を通して豊かな感性や創造力を育み、じっくり考え、自ら判断する力を身につけること、また、子どもの発達段階に応じて読書に親しむ環境の充実や読書活動の一層の推進を図ること。
取組実績	パブリックコメントを実施、庁内検討委員会、計画策定委員会を開催し、教育委員会へ上程
成果	令和7年3月6日策定
課題	計画年度終了に併せて次期計画の策定が必要
今後の方向性	計画に基づき目標の達成を目指す。

項目	課題解決型常設展示の実施（継続）
目的	図書館の本は、規則的に分類・配置（日本十進分類法）されているが、利用者の関心の高いテーマ設定により、分類番号によらずテーマごとにまとめて配置することで、利用者の利便性の向上を図る。
取組実績	日本十進分類法とは別に分類して「健康の本」、「いきいきシニア」、「くらしの本」等のコーナーを設置
成果	利用者の関心の高いテーマであり、図書館活用のきっかけ作りとなっている。
課題	配置可能な本のテーマやジャンルが限定される。
今後の方向性	配置する本の適切な選定を行いながら、利用者に喜ばれるコーナーづくりをめざす。

項目	ブックスタート事業の実施（継続）
目的	乳児期から本に親しむ環境を整え、読書活動の基礎を育むとともに、図書館の利用促進を図る。
取組実績	・ゼロ歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈る。（147名） ・子ども名義のかしだしカードの作成（75名）
成果	乳児期から本に親しむことで、将来の読書活動に結びつくきっかけづくりとなっている。また、親子のコミュニケーションづくりの一助となっている。
課題	子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップや読める年齢になったときの支援が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項目	学校巡回図書（クリオネ文庫）整備事業（継続）
目的	小学校と連携し、児童の身近な場所である学校で本に親しむ環境づくりを進めるため、図書館の本を各教室に配置し、子どもの読書活動の機会の充実を図る。
取組実績	・小学校各教室に30冊ずつ図書を配置。（1～3ヶ月ごとに巡回） ・配置学級数：9校 59学級 配置図書：3,300冊 ・蔵書の入替え・整備 495冊購入
成果	学校の休み時間や授業等で活用され、小学生が本に接する機会が増えている。
課題	図書の計画的更新完了後、一定期間経過した時点で再更新が必要。
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、学校と連携しながら事業を継続するとともに、基金を活用しながら計画的に図書の更新を進める。

項目	ブックトーク事業の実施（継続）
目的	小学生の読書量が減少傾向にある中、読書への関心を高め、読書習慣を育むため、ブックトークの手法を活用する。
取組実績	市内5小学校7クラスで実施 参加合計126名
成果	児童の紹介本への興味・関心が高まり、多くの児童が紹介本を手に取り熱心に読んでいた。また、担任以外の教諭の実施内容への関心も高く、見学も多数あった。
課題	学校及び講師のスケジュール調整
今後の方向性	本の魅力を引き出すプレゼンテーションの優れた技術を有する講師の招聘により、児童の読書への関心を高めるため継続して実施する。

項目	子ども読書週間記念事業の実施（継続）
目的	子ども読書の日（4/23）及び子ども読書週間（4/23～5/12）に合わせて図書館事業を実施し、子どもたちの図書館利用促進と読書活動の推進を図る。
取組実績	・記念イベントの開催 クレヨンカンパニーいろいろげきじょう 5/19 参加113名 ・企画展示の実施 「あてっこどうぶつずかんだれ 巡回パネル展 in 北海道」 4/23～5/12
成果	乳幼児を含む家族で図書館に親しむ機会の提供と子どもの読書活動の推進に一定の役割を果たした。
課題	工夫を凝らした事業の開催が必要。
今後の方向性	記念事業を継続して開催することにより、子どもの読書活動の推進を図る。

項目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図るとともに、乳幼児を含めた読書環境の充実を図る。
取組実績	・よみきかせ会 ①えほんのもり 50回 276名参加 ②子育て支援センター 6回 68名参加 ※「えほんのもり」よみきかせ会は高校生を含むボランティア団体により実施 ・お楽しみ会開催（夏・冬）52名参加 ・一日図書館員体験（夏・冬）68名参加
成果	よみきかせを通じて、子どもに読書の楽しさを伝えることができた。 図書館の仕事に触れる機会を通じて、図書館に親しみを感ずるきっかけを提供することができた。
課題	ボランティア団体の会員減少による連携の維持。
今後の方向性	乳幼児から児童までを対象として本や読書に親しむきっかけとなる事業を継続して実施していく。

項目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協働により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	対面朗読サービス、視覚障がい者の方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作製、「えほんのもり」「高齢者施設等」でのよみきかせなどを実施
成果	点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供ができた。
課題	ボランティアの新たな人材の確保。
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体との協働による事業を継続する。

項目	ボランティア養成事業（継続）
目的	ボランティア団体等の学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民との協働による図書館活動の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いた読み聞かせ講座等を開催 11/9 大人のための絵本セラピー 15名参加 12/21 朗読・読み聞かせ講座 20名参加 ボランティア団体メンバーの指導によるフェルト工作イベントの開催 10/13 「わたしたちのまち『あばしり』」150名参加 ※図書館まつりと同時開催
成果	新たな要素を加味した講座等の開催により、ボランティアの視野を広げるきっかけとなり、また、参加者のボランティア団体への新規加入にもつながった。
課題	講座等の内容は基本を重視しながらも常に工夫が必要。
今後の方向性	多様なボランティア活動があるため、今後も各団体の意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを開催していく。

項目	図書館まつりの開催（継続）
目的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	<p>令和6年10月13日（日）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 古本市 来場者800名（主催：あばしり市立図書館友の会） 子ども俳句・短歌大会 応募数885点（展示10/9～13、表彰式10/12） 人形劇団たんぼぼ公演 参加者140名、電子図書館体験会 参加者100名 仕掛け絵本展 10/9～13 期間中来場者 1,540名
成果	恒例のイベント開催により多くの来場者があり、図書館の利用促進及び読書活動推進が図られた。
課題	今後も関係団体の協力を得て、連携した事業内容や展示の工夫が必要。
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項目	読書ノート配布（継続）
目的	利用者が自ら読了した書籍名等を記録する読書ノートを無料提供し、読書ノートの活用による読書に対する意欲の維持、向上に資する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度配布数 ①小学生用 15冊 ②中高生用 6冊 ③一般用 23冊 図書館ホームページにダウンロード用ファイルの掲載
成果	一定数の利用者に配布があり、活用されている。
課題	読書ノートの効果的な周知。
今後の方向性	読書活動推進のための有効なツールの一つとして配布を継続していく。

項目	絵本パック「ベビークリオネ」「プチクリオネ」の貸し出し（継続）
目的	保護者にとって年齢に応じた選定が難しく悩むことが多い乳幼児向け絵本について、適切な資料を提供し、乳幼児と親が絵本に親しむきっかけとする。
取組実績	<p>司書が年齢別に選定した絵本パックを作り、貸し出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ベビークリオネ」（0～3歳向け5冊、20セット）貸し出し：143回 「プチクリオネ」（4～6歳向け5冊、10セット）貸し出し：34回
成果	乳幼児親子の図書館利用が促進され、読書のきっかけづくりとなった。
課題	今後も親子の利用拡大に向け、絵本の充実や更新が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

2 社会教育

(1) 全ての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項 目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目 的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして講座を開設する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・原子模型を作ろう（9月）5名 ・ウィルタ刺しゅう入門講座（10月全5回）10名（延べ56名） ・初心者のための手作りみそ友講座（11月2回）計16名
成 果	食や伝統文化、科学など、生活に関わる身近なテーマを講師とともに企画開設し、市民生活の向上につなげている。
課 題	市民が地域課題や生活課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払い企画を行う必要がある。
今後の方向性	関係機関や市民との連携、協働により、地域課題の把握に努めながら学習機会を提供していく。

項 目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目 的	市民が自ら講座を開催する支援を行い、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・クラフトバンドでカールバスケットを作ろう（6/29）7名 ・ブリザーブドフラワーアレンジメント体験しませんか（7/15）5名 ・編み物の初歩（11/16・7名、11/30・7名）計14名 ・オリジナルクリスマスリースを作ろう（12/1）3名 ・消しゴムはんこで干支に挑戦（12/22）7名 ・クラフトバンドで収納カゴを作ろう（3/15・①7名、②6名）計13名
成 果	市民ボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。
課 題	学習成果の還元を開催目的とするほか、市民の要望に応じた分野、開設時期などを検討する必要がある。
今後の方向性	市民の学習成果の還元の機会として、主体的な講座開設とサークル活動の活性化につなげていく。

項目	あばしり学講座の開設（継続）
目的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとする講座を創設し、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め、地域の活性化を目指す。
取組実績	<p>■単講座（対象：一般市民）参加者 101 名</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「網走湖徹底調査&網走川下り」（7/13）4 名 ②「デンソーテストセンターに潜入」（7/27）14 名 ③「めざせ！あばしりトランプ王」（8/31）33 名 ④「秋の収穫体験 in 稲富」（10/16）13 名 ⑤「三眺山に登ってみよう」（11/10）33 名 <p>■ロセトコース～わくわく探検隊～（対象：小学 4～6 年生）参加者延 77 名</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「オリエンテーション」（6/23）7 名 ②「網走湖徹底調査&網走川下り」（7/13）12 名 ③「小麦ができるまで」（8/3）11 名 ④「酪農体験～牛について知ろう～」（9/7）9 名 ⑤「中間報告会」（11/9）6 名 ⑥「スケトウダラってなんだろう」（11/30）12 名 ⑦「おーろら乗船体験！」（2/15）9 名 ⑧「体験報告会」（3/8）11 名 <p>■学生 HERO' S（対象：中学・高校・大学生）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ボランティア研修会」（6/23）7 名 ②「あばしり科学フェスティバル」（7/7）5 名 ③「網走湖徹底調査&網走川下り」（7/13）12 名 ④「小麦ができるまで」（8/3）4 名 ⑤「酪農体験～牛について知ろう～」（9/7）1 名 ⑥「サマーデイキャンプ」（9/8）7 名 ⑦「秋の収穫体験 in 稲富」（10/6）11 名 ⑧「中間報告会」（11/9）1 名 ⑨「あばしりまなび塾フェスティバル」（11/23）13 名 ⑩「スケトウダラってなんだろう」（11/30）2 名 ⑪「子ども大会」（12/15）22 名 ⑫「おーろら乗船体験！」（2/15）7 名 ⑬「体験報告会」（3/8）2 名 <p>■青年講座 U-35（対象：18～35 歳）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「網走の観光地をきれいにしよう」（7/21）9 名 ②「網走産の食材を使用したクリームパスタを作ろう」（10/22）7 名
成果	各世代に体験学習を通じて、網走の自然や産業の魅力についての学びを提供したほか、学生 HERO' S については、高校生・大学生がジュニアリーダーとしての役割を担うとともに、異世代との交流の中で社会的役割を認識しながら郷土を学ぶ機会となった。
課題	まちづくりや人づくりにつながる題材の研究や手法の工夫によって魅力ある講座づくりを進める必要がある。U-35 の参加者が減少傾向にあるため、参加者の拡充と魅力ある企画づくりが課題である。
今後の方向性	関係機関や企業、団体などとの連携により、参加者相互の交流を含めて網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながる講座展開に取り組んでいく。

項目	暮らしをデザイン 2024 の開催（継続）
目的	日々の暮らしや家庭環境の整え方を学び、家庭や学校、地域社会において、現代的課題の解決策を自らデザインしていくきっかけの場として講演や講座を開催する。
取組実績	<p>■暮らしをデザイン 2024</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演名 「北海道キャンプを楽しもう！～大自然に学ぶハッピーなアウトドアライフ」 ・開設日 2月16日（日）10:00～11:30 ・講師 北海道キャンプコミュニティーマネージャー 川手有沙 氏 ・会場 エコーセンター2000 大会議室 ・内容 人生た暮らしを豊かにする「キャンプの魅力」、災害時に役立つキャンプ経験、初級・中級・上級にわたるキャンプの楽しみ方、キャンプの失敗体験やハプニング対策についての講演。 ・参加者 44名
成果	近年注目を集める「キャンプ」をテーマに、若い世代から高齢者層まで、普段、エコーセンターの事業に参加したことのない方も含め、幅広い受講者を得た。
課題	市民に関心を引くテーマや地域社会や現代的課題をテーマに取り入れ、講演・講座を企画していく必要がある。
今後の方向性	様々な生活課題や現代的課題に関する学習機会を設定し、市民生活の向上につなげていくための内容を研究していく。

項目	寿大学の開設（継続）
目的	社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術の習得、健康の維持など、積極的な高齢者の生きがいを求める学習の場を提供する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・大学 開設日 4月～翌年3月／第2・第4水曜日 会場 エコーセンター2000 内容 一般教養講座（全9講座） クラブ活動、自治会活動、入学式、賀寿祝賀会、意見発表会、卒業式並びに修了式 ・大学院 開設日 4月～翌年3月／第3水曜日 会場 エコーセンター2000 内容 郷土史コース（1年）、自分史コース（2年） 開設数10回 ・在籍数 195名（1年29名、2年26名、3年13名、4年11名、 大学院18名（1院13名、2院5名）、生涯研究生98名
成果	高齢者の生きがいや生活技術の習得と社会参加の促進のために必要な学習機会を大学自治会の協力により提供できた。
課題	大学院で研究論集の作成に取り組むことに抵抗のある学生がいることから、大学時から文章を書くことに慣れ親しむ学びの連動性が必要であり、時代に応じたカリキュラム編成を検討していく必要がある。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応する学習機会の提供と地域社会との交流を通じて、高齢者の社会参加を促す取組を推進していく。

項目	網走市民大学の運営支援（継続）
目的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に対し支援することにより、市民の学習意欲を高め、新しい知識の習得や教養の向上を図る。
取組実績	<p>実施主体：網走市民大学</p> <p>■第49期 網走市民大学講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設日：7月～10月、講座数：全5講座 ①「わたしのヤングケアラー～障がいある両親の元に生まれて～」 美容師/Hair Dresser TiCA オーナー 高橋美江 氏（7/3、参加者142名） ②「知っているようで知らない、流水と魚介類のふか～い関係」 東京農業大学生物産業学部教授 西野康人 氏（8/8、参加者122名） ③「断捨離®で人生を変える」 断捨離®提唱者 やましたひでこ 氏（9/5、参加者306名） ④「地域活性化の取り組み～酒蔵が挑戦する地方創生～」 上川大雪酒造(株)代表取締役社長 塚原敏夫 氏（9/26、参加者127名） ⑤「三流シェフ 人生100年時代の仕事」 ホテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ 三國清三 氏（10/29、参加者210名） <ul style="list-style-type: none"> ・会場：オホーツク・文化交流センター エコーホール ・内容：自然科学・人文学・社会科学など多様な分野 ・参加数：全講座登録者119名、単科講座受講者347名、延受講者907名
成果	市民主体の運営組織により、幅広いジャンルから講師を招聘し、市民の学習意欲を創出する講座を企画し、市民大学として円滑な運営が行われた。
課題	市民の生活や趣向、地域課題に寄り添った学習内容が編成されているが、幅広い層への参加拡大や講師選考など限られた予算の中で効率的な運営を図ることが求められる。
今後の方向性	学習プログラムの編成方法の検討や市内の他の団体・機関で企画される講演会等と連携するなど、工夫を図りながら引き続き取り組んでいく。

項目	北海道科学大学との連携講座の開催（継続）
目的	北海道科学大学と連携し、市民が幅広い分野について学ぶことができる公開講座を開催する。
取組実績	<p>■北海道科学大学連携講座</p> <p>「AIを学ぼう！今日から使えるAI講座」 12月14日（土）参加者29名（小学生） 協力企業：(株)きたまいか（札幌市）</p>
成果	小学生を対象に「AIと一緒にキャラクターづくり」、「AIを使ってプログラミング」を開設し、最新の情報技術に触れる機会をつくとともに、情報技術を使った多様な体験を通じて、情報技術の可能性を学ぶ機会を子どもたちに提供した。
課題	高等教育機関の知的技術と市民が求める知識、地域課題の解決につながる講座内容とを連動させた講座の企画を行っていく必要がある。
今後の方向性	北海道科学大学や民間企業などと連携して、充実した講座を開催していく。

(2) 子どものための学習や体験の場の提供

項目	放課後子ども教室推進事業（継続）
目的	子どもたちが放課後や週末を安全で安心して活動できる場を市内小学校区に開設し、市民団体の個性を活かしたプログラムを通じて、体験・交流を目的とした「子どもの居場所」の提供を行う。（通称：遊村あばしり）
取組実績	実施主体：網走市放課後子ども教室推進事業実行委員会 ・開設日 前期：5～9月、後期10～2月／平日15時～17時／休日10時～12時 ・開設数 304回 ・会場 市内6カ所（コミュニティセンターほか） ・指導者 市内4団体（指導者29名） ・内容 ①スポーツライティング、トランプ、スポーツ教室 ②遊び、水泳、書道、読み聞かせ、学習支援ほか ③語学学習、工作ほか ④アート体験 ・参加数 150名（延1,848名）
成果	市民団体やNPO法人等が有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムを提供することにより、子どもたちの放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。
課題	国費補助の額が減少する中、教室の安定的な運営を図る必要がある。持続的な子どもの居場所を確保するため、指導者の確保・育成が必要である。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく。

項目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目的	子どもたちが、理科や数学などを体験的に学べる科学ブースを市民が企画し、ボランティアなどの支援を通じて一つのイベントとして運営することで、網走の子どもたちの科学する心を育む機会を提供する。
取組実績	実施主体：網走市子どもフェスティバル実行委員会、網走市教育委員会 ・開催日時 7月7日（日）9:30～12:30 ・会場 オホーツク・文化交流センター エコーホール ・開催内容 体験コーナー10ブース、サイエンスショー ・参加者 351名、ボランティアスタッフ77名
成果	令和6年度は、10ブースの体験コーナーを設置し、多くの子どもたちに参加してもらい、理科や算数の原理を身近なものとして捉える機会を創出した。
課題	市民指導者、ボランティアスタッフの確保などの課題があり、東京農大の学生や理科や数学に関心のある市民ボランティアへの働きかけが必要である。
今後の方向性	他の社会教育事業との連動により、市民指導者・スタッフのさらなる育成、東京農業大学との連携などに努めながら取り組んでいく。

項目	ロセトクラブの開催（継続）
目的	子どもの余暇活動を支援するため、市民ボランティアの指導者により学習機会を提供し、子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	<p>■ロセトクラブ（単講座） 4月～翌年3月／24教室 参加者延 284名 内 容：学習支援、工作、書道、お菓子づくりなど</p> <p>■ロセトクラブ（連続講座） 3月～翌年4月／7回 参加者延 40名 内 容：ヴァイオリン教室 指導者／子どもと遊ぼうボランティア隊 10名</p>
成果	令和6年度より、単講座では、四半期毎の教室募集と周知を図り、年24回の教室開催となり、多くの子どもたちに学習機会を提供することができた。
課題	市民ボランティアの主体的な企画運営としているため、開催時期や定員数などで指導者側と参加者側のニーズが異なることがある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項目	中学生、高校生への自習室開設（継続）
目的	オホーツク・文化交流センターの空き室を中学生・高校生の自主学習の場として開放することにより、青少年の居場所づくり、学力向上に資する。
取組実績	<p>① 5/25（土）～26（日）、6/1（土）～2（日） 利用者 39名</p> <p>② 8/24（土）～25（日）、8/31（土）～9/2（日） 利用者 14名</p> <p>③ 11/9（土）～13（日）、11/18（土）～19（日） 利用者 3名</p> <p>④ 2/8（土）～9（日）、2/11（火・祝）、2/15（土）～16（日） 利用者 27名</p> <p>・開設場所 オホーツク・文化交流センター 学習室・研修室（空室解放）</p> <p>・開設時間 午前9時～午後7時まで（中学生は午後6時まで）</p> <p>・利用対象 中学生、高校生（大学生、専門学校生は除く）</p>
成果	令和6年度は、市内中学・高校のテスト期間前の土・日曜日を基本に、年間4期の開設期間を設定し、市内各中学校・高校へ周知を図り空室を開放した結果、延83名の利用となった。（中学生利用46%、高校生利用54%）
課題	開放する部屋が満席となった場合は、必然的に図書館で学習する学生が増えることから、利用者が増加した場合の部屋確保が課題である。
今後の方向性	施設運営に支障のない範囲で利用者の要望を反映しながら今後も取り組んで行く。

項目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切に、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	<p>・開催日 全8回（6/9、6/23、7/7、7/21、8/4、8/18、9/1、9/15）全て日曜日</p> <p>・会場 呼人スポーツ・トレーニングフィールド</p> <p>・内容 ウサギ、ハムスター、モルモット、ヒヨコ</p> <p>・参加者 1,341名（子ども665名、大人676名）</p>
成果	東京農業大学と連携し、事業を行っており、子どもにとって動物とのふれあいは、楽しく貴重な体験であり、情操の発達に役立っている。
課題	動物の負担や飼育状況を飼育委託先の団体と連絡調整しながら、開園手法を研究する必要がある。
今後の方向性	毎年、多くの市民が楽しみに来場されることから、今後も継続して実施する。

項目	子ども夢育事業（継続）
目的	中学生を対象に、夢や人生などをテーマとした講演を開催し、「夢を持って生きること」の大切さを学び、感性豊かな心を育むことで自分らしく生きる力を形成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 10月30日（水） ・会場 エコーセンター エコーホール ・講師 三國清三氏（オテル・ド・ミクニ オーナーシェフ） ・内容 味覚の仕組みや自然の味を味わうことの大切さ、生い立ちから札幌クラントホテル、帝国ホテル、スイス大使館料理長へ進むこととなった経緯、その後「世界のミクニ」として有名となったエピソードを通じて、「自ら行動を起こすことの大切さ」「人が嫌がることを進んで取組み、努力を絶やさない姿勢」「信念をもって挑戦を続けること」など、三國シェフの生き様を伝える講演。 ・参加者 294名（市内中学校2年生・教職員等）
成果	夢を持つこと、夢に向かって努力することの大切さなどを、講師の体験談を通じて学習することで、中学生が人生において大切なことを学ぶ機会となった。
課題	講師選定や開催時期、場所などについて学校と連携して取り組む必要がある。
今後の方向性	学校と連携し、効果的な開催手法を研究しながら事業を進めていく。

項目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目的	子ども（小学生）の夏休み、冬休みの活動を支援するとともに、創造性や探求心を育む教室を開催し、子どもの個性や自主性を向上させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ■夏休み教室（4教室、全7回、参加者80名） <ul style="list-style-type: none"> ①「数学を楽しもう～折り紙と六角形の数学～」（7/24）参加者1名 ②「クラフトバンドで麦わら帽子のオーナメントを作ろう」（7/28）参加者7名（①6名、②1名） ③「ミニチュアアイスファクトリー」（8/3）参加者26名（①15名、②11名） ④「ひんやりフラワーゼリーを作ってみよう」（8/8）参加者18名（①11名、②7名） ■冬休み教室（2教室、全3回、参加者17名） <ul style="list-style-type: none"> ①「クリスマスキャンドルをつくろう」（12/21）参加者3名 ②「クリスマスブローチファクトリー」（12/22）参加者14名（①6名、②8名）
成果	市民講師の協力を得て、夏休み・冬休みに子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課題	夏休み・冬休み時期に、子ども向けの多様な体験教室を市民講師の協力を得て、企画提供する必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休みでの多様な学習プログラムを今後も検討していく。

(3) 学習成果を還元する機会の充実

項目	学校支援地域本部事業の実施（継続）																																			
目的	子どもたちの教育のために役に立ちたいとの思いを持つ市民ボランティアと学校のニーズをマッチングさせ、家庭・学校・地域が一体となって子どもを育てる体制を整える。																																			
取組実績	実施主体：網走市学校支援地域本部事業実行委員会 登録件数 個人 191 名、団体 18 団体 支援内容 <table border="1"> <tr> <td>学習支援活動</td> <td>13 校</td> <td>54 件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>814 名</td> </tr> <tr> <td>部活動指導補助</td> <td>2 校</td> <td>2 件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>150 名</td> </tr> <tr> <td>環境整備支援</td> <td>1 校</td> <td>1 件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>9 名</td> </tr> <tr> <td>登下校安全指導</td> <td>7 校</td> <td>7 件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>970 名</td> </tr> <tr> <td>学校行事補助</td> <td>4 校</td> <td>5 件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>20 名</td> </tr> <tr> <td>その他の支援</td> <td>5 校</td> <td>8 件</td> <td>ボランティア延数</td> <td>157 名</td> </tr> <tr> <td>合計（延数）</td> <td>32 校</td> <td>77 件</td> <td></td> <td>2,120 名</td> </tr> </table>	学習支援活動	13 校	54 件	ボランティア延数	814 名	部活動指導補助	2 校	2 件	ボランティア延数	150 名	環境整備支援	1 校	1 件	ボランティア延数	9 名	登下校安全指導	7 校	7 件	ボランティア延数	970 名	学校行事補助	4 校	5 件	ボランティア延数	20 名	その他の支援	5 校	8 件	ボランティア延数	157 名	合計（延数）	32 校	77 件		2,120 名
学習支援活動	13 校	54 件	ボランティア延数	814 名																																
部活動指導補助	2 校	2 件	ボランティア延数	150 名																																
環境整備支援	1 校	1 件	ボランティア延数	9 名																																
登下校安全指導	7 校	7 件	ボランティア延数	970 名																																
学校行事補助	4 校	5 件	ボランティア延数	20 名																																
その他の支援	5 校	8 件	ボランティア延数	157 名																																
合計（延数）	32 校	77 件		2,120 名																																
成果	平成 20 年度の実施以来、事業についての市民、教員の理解も進み、活動が定着している。																																			
課題	ボランティアの高齢化や平日ボランティアができるボランティア登録者が限られており、学校の要望に対して、なかなかマッチングできない事案が増えてきている。																																			
今後の方向性	市内全小中学校（15 校）及び養護学校（1 校）で事業を活用しており、コミュニティスクールなどと連携を図りながら、推進体制を構築していく。																																			

項目	まちの達人出前事業の実施（継続）
目的	豊富な経験や知識・技能をもつ市民の方が、その力を学校からの依頼のもと、授業講師として活かすとともに、講師の謝金を支援し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 市内小中学校の授業 ・要件 1 校あたり原則 4 回を上限とする。授業時間は、1 回 2 時間程度とする。 ・支援内容 講師謝金（5 千円）を支援する。 ・事業実績 11 校 26 件 市民講師 9 名 2 団体 ・教科内容 総合的学習 11 件、家庭科 7 件、体育 4 件、保健体育 3 件、美術 1 件
成果	総合的な学習の時間などを中心に、伝統文化やマナー講座、防災や性の授業など、各分野に精通した市民講師が活用された。
課題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。
今後の方向性	学校職員への周知に努めるとともに、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。

項目	学生ボランティア支援事業（新規）
目的	地域の子どもたちのための教育委員会主催事業に、ボランティアとして参加する高校生、大学生に対し、交通費相当分の支援を行い、教育ボランティアの育成確保を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティア登録者 東京農大生 78 名、網走南ヶ丘高校生 30 名、網走桂陽高校生 13 名 合計 121 名 ・支援内容 報償費として 1,000 円/回を支援する。 ・事業実績 延 310 名（決算額 310 千円）
成果	令和 6 年度は事業初年度として、当初延 180 名の参加を見込んでいたが、結果として延 310 名の学生ボランティアの参加を得ることができ、子どもたちの教育環境の充実につながるのと同時に、学生ボランティアの育成が図られた。
課題	自主的にボランティア参加をしてくれる学生を継続して確保するには、経済な支援だけではなく、参加から得られる達成感や学習要素をいかに作っていくかが課題である。
今後の方向性	高校生、大学生のボランティア参加を通じて、長期的な人づくり、地域づくりにつなげていく仕組みを作っていく。

3 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項目	家庭教育学級、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目的	家庭生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活、家庭教育環境づくりを支援する。
取組実績	<p>■家庭教育学級</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街区中学校（当番校：第三中学校）9月7日（土） 「陸上自衛隊網走分屯基地・網走市廃棄物処理場見学」 参加者 20名 市街区小学校（当番校：網走小学校）2月11日（火） 「やるきを引き出す質問トレーニング」 講師：（司法書士、しつもん法律家）矢筈原 浩介 氏 参加者 18名 郊外地区（当番校：西が丘小学校、第五中学校）11月30日（土） 「ヨガ教室」 講師：網走 YOGA サークル tetote 主宰 佐々木 愛美 氏 参加者 23名 <p>■家庭教育フォーラム兼網走市父母と先生の会連合会研究大会</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日 10月5日（土）9:30～11:30 会場 エコーセンター2000 エコーホール 参加者 120名 講演 「どんな自分も全部〇（マル）～奇跡を伝える性（いのち）のお話～」 講師 新・子育て研究家 御厩 京香 氏
成果	家庭教育の推進を図るため、家庭教育学級を当番校を決め、市内・郊外で実施するとともに、PTA（父母と先生の会）連合会と連携し、家庭教育フォーラムを開催した。
課題	学校や父母と先生の会連合会などとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、趣旨を充分伝え、父母と先生の会連合会などの市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施していく。

項目	幼児を育てる親の子育て講演会（継続）
目的	ライフスタイルの多様化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てる環境が変化している中、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い不安の解消に努める。
取組実績	<p>■保育従事者向け講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日 7月11日（木）19:00～20:30 講演名 「乳幼児期にとっての『あそび』と『主体性』を考える」 講師 北海道大学子ども発達臨床研究センター准教授 川田 学 氏 参加者 42名 <p>■保護者向け講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日 7月12日（金）10:00～11:30 講演名 「乳幼児期にとっての『あそび』と『主体性』を考える」 講師 北海道大学子ども発達臨床研究センター准教授 川田 学 氏 参加者 44名（会場28名、オンライン16名） 託児15名
成果	子育て支援課と連携し「保育従事者向け講演会」と「保護者向け講演会」との2講演を実施。保護者向け1講演会ではオンラインを活用したハイブリット形式での講演会としている。また、託児も行き受講環境を整えている。
課題	子育ての不安などを解決できるような講座内容を検討し、開設方法を研究していく。
今後の方向性	子育て支援課など関係機関と連携し、幼児教育の環境づくりの充実を図っていく。

(2) 子どもを育む地域力育成の支援

項目	網走市子ども会育成連合会への支援（継続）
目的	市内の子ども会活動を支援し、地域が子どもを見守り育む取組を支援する。
取組実績	<p>実施主体：網走市子ども会育成連合会</p> <p>■ボランティア研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 8月23日（日） ・会場 エコーセンター2000 ・参加者 18名（小学生7名、子ども会4名、高校生大学生5名、一般2名） <p>■サマーデイキャンプ兼育成者研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 9月8日（日） ・会場 道立オホーツク公園てんとらんど ・内容 レクレーション、モルック体験他 ・参加者 27名（子ども20名、ボランティア・スタッフ7名） <p>■あばしり市子ども大会2024の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 12月14日（日） ・会場 北コミュニティセンター ・内容 チャレラン大会、ラジオ体操表彰など ・参加者 115名（子ども86名、子ども会7名、高校生大学生22名） <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操カードの配布、斜網地区子ども会育成連絡協議会活動への参加
成果	子ども会連合会の活動として定着している「サマーキャンプ」、「網走市子ども大会」などの開催を通じて、地域が子どもを見守り育む活動を実施した。
課題	少子化や町内会活動の停滞などにより、市内各地域の子ども会活動が休止または廃止となってきており、子ども会連合会としての役割や機能を見直す時期に来ている。
今後の方向性	地域が子どもを見守り育む活動を支援し、子どもの健全育成に取り組んでいく。

項目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目的	子どもたちの豊かな心を育てるための啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	<p>実施主体：網走市豊かな心を育てる活動推進会議</p> <p>■豊かな心を育てる小中学生の意見発表会</p> <p>「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」などをテーマに、自分の考えや体験したことを発表する機会を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 2月1日（土） ・会場 エコーセンター エコーホール ・参加者 市内小中学校代表 児童生徒14名（小学生8名、中学生6名）呼人小不参加 ・来場者 160名 <p>■啓発活動、標語募集</p> <p>「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「家族」「働くこと」の各テーマから選んだ標語を募集し、入選30作品を活用したカレンダーを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募数：1,153点 内オンライン応募数846点（73.4%） ・カレンダー作成：2,000枚（市内関係機関に配布）
成果	意見発表会の開催を通じて、少年の主張オホーツク管内大会への網走市代表者の選考を行うほか、標語の募集・周知を通じて子どもたちの豊かな心の育成に繋げて行く取り組みを支援した。
課題	小学校低学年の標語入選者数が少ないといった課題があることから、募集方法・入選者選考方法などに工夫を図る必要がある。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取組であり、今後も推進していく。

4 芸術文化

(1) 文化活動の促進

項目	芸術文化合宿誘致事業への支援（拡充）
目的	芸術文化団体の合宿受け入れを行い、市民との交流推進と芸術文化の向上を目指す「芸術文化合宿実行委員会」が行う事業を支援し、芸術文化活動の拠点となる体制づくりを進める。
取組実績	<p>実施主体：網走市芸術文化合宿実行委員会</p> <p>【令和6年度受入団体】</p> <p>①オホーツク管内吹奏楽連盟（管内）（5/11～12）受入人数90名（延90泊） バンドクリニック、合同演奏会開催（参加者65名）</p> <p>②京都大学交響楽団（京都市）（8/18～20）受入人数95名（延190泊） 中学生合同練習、合同演奏会開催（来場者550名）</p> <p>③日本学生写真部連盟（全国各地）（8/19～21）受入人数20名（延40泊） 合宿成果 展示会開催（8/21～9/1）（来場者898名）</p> <p>④道教育大学岩見沢校油彩画研究室（岩見沢市）（8/23～25）受入人数13名（延26泊） 合宿成果発表展開催（3/4～13）（来場者573名）</p> <p>⑤札幌大谷大学芸術学部（札幌市）（9/19～21）受入人数15名（延30泊） 合宿成果展示会（12/3～8、ふるさとアーティストフェスティバル開催時に展示） （来場者859名）</p> <p>⑥山中能舞台（大阪市）（1/14～18）受入人数3名（延15泊） 能楽体験ワークショップ開催（参加者6名）</p> <p>⑦旭川商業高校吹奏楽部（旭川市）（1/31～2/1）受入人数59名（延59泊） 合宿成果演奏会開催（来場者320名）</p> <p>⑧北海道文教大学国際交流センター（2/28～3/2）受入人数9名（延17泊） 国際交流事業（世界を旅しよう！）開催（参加者22名）</p> <p>【令和6年度合宿誘致・PR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：10/7（月）～8（火）1泊2日 ・訪問先：光塩女子短期大学（札幌市）、北海道科学大学（札幌市）、札幌大谷大学（札幌市）、北海道教育大学札幌校（札幌市）、北海道教育大学岩見沢校（岩見沢市）、旭川商業高校（旭川市）、旭川明成高校（旭川市）
成果	コロナ開けの令和4年度よりプロモーション活動を再開し、令和6年度は過去最高の受入実績（受入人数304名）となった。
課題	芸術文化団体の合宿地として定着するためには支援体制の整備と合宿先として選択されるための魅力ある資源の確保とPR活動が必要である。
今後の方向性	プロモーション活動を継続的に行い、文化芸術団体の合宿誘致につなげる取組を行うとともに、支援体制の整備や網走の魅力発信に取り組んでいく。

項目	オホーツク・アートセミナー事業の支援（継続）
目的	市民に音楽や美術に関する質の高い優れた表現技法を専門講師から学ぶ機会を提供し、市民の芸術文化活動の活性化を図る。
取組実績	実施主体：オホーツク・アートセミナー実行委員会 ■音楽セミナー（7団体29回開催） 網走小（5/15、12/4）、第一中（7/6、7/25、3/7）、第三中（7/6、10/8、10/21、10/29、11/12、12/26）、桂陽高（6/7、6/13、6/16、6/17、6/22、7/8、7/21、7/28、8/8、9/23、10/18）、南高（6/9、7/21、10/18、3/8）、網吹（7/31、8/1）、合唱団あばしり（8/31） ■美術セミナー（2講座4回開催） 描画講座（日本画講座）（2/15、2/16） 工芸講座（シルクスクリーン）（3/22、3/23）
成果	令和6年度は、市内小中高の吹奏楽部、音楽・合唱団で音楽セミナーを計29回開催した他、美術館にて4回の美術セミナーを開催し、文化芸術の振興を図った。
課題	音楽、美術などの分野で優れた講師を市内の文化芸術団体へを派遣し、文化芸術の振興を図る必要がある。
今後の方向性	オホーツク・アートセミナー実行委員会への事業支援を通じて、引き続き市内芸術文化団体の活性化を推進する取り組みを継続する。

項目	文化団体の活動支援（継続）
目的	市内文化団体で構成されるNPO法人網走市文化連盟が、広く市民を対象に行う郷土文化振興事業に対して支援を行うことにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	実施主体：特定非営利活動法人網走市文化連盟 ■第59回網走芸術祭（9～11月） ①市民華道展 9/3（火） ②市民盆栽展 9/27（金）～29（日） ③市民書道・俳句・絵画展 10/14（月）～20（日） ④あばしり子ども創作作品展 10/26（土）～11/10（日） ⑤市民舞台芸能発表会 10/26（土） ⑥市民音楽祭 10/27（日） ⑦呈茶サービス 10/7（月） ⑧あばしり映画祭 11/9（土）～10（日） ■文化功労者顕彰式 11/3日（日・祝） ・網走文化功労賞：豊島佐智子（茶道：茶道裏千家淡交会網走支部） ・網走文化功労賞：佐藤京子（詩吟：オホーツク岳風会網走支部） ・網走芸術奨励賞：レイアロハフラスタジオ旭川網走教室（フラダンス）
成果	市内文化団体の発表の場となる展示会、舞台発表会などを開催し、市民の文化活動の振興を図ったほか、永年、文化活動に従事し、文化振興に貢献した市民の表彰を実施した。
課題	文化団体の高齢化、文化連盟事業の持続性についての課題があり、文化連盟内で議論協議が行われている。
今後の方向性	市民の文化活動の振興・発展のため、文化連盟の意向を確認し、必要な支援を今後も継続していく。

項 目	文化芸術振興褒奨金事業（継続）
目 的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	【令和6年度実績】 ■ 網走南ヶ丘高等学校報道局（報奨額 67,500 円） ・ 第 44 回全国高等学校総合文化祭・新聞部門出場 8/1～3（岐阜県中津川市）
成 果	市内高等学校報道局の全国大会出場に際し、報奨金を支出しその活動を支援した。
課 題	「網走市文化芸術申告報奨金制度」を広く活用してもらうため、広報などが必要。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、報奨金制度について広く広報PRを図る。

項 目	網走市文化連盟設立 60 周年事業の支援（新規）
目 的	網走市文化連盟が設立 60 周年を迎え、周年事業を実施しすることに対し支援を行い、市民の文化芸術の更なる向上と、文化団体の活動の活性化を図る。
取組実績	実施団体：特定非営利活動法人網走市文化連盟 ■ 太鼓芸能集団「鼓童」網走公演の開催 ・ 開催日時：9 月 8 日（日）16:00～18:00 ・ 開催会場：網走市民会館大ホール ・ 来場者数：871 名（チケット販売数 923 枚） ■ 網走市文化連盟 60 周年記念誌の発行 ・ 発 行 日：令和 7 年 3 月 31 日 ・ 発行部数：200 冊
成 果	設立 60 周年を記念して実施した「鼓童網走公演」は、多くの来場者を集め盛況に開催された。また、60 周年を記念して発行された「網走市文化連盟 60 周年記念誌」は、50 周年以降の加盟団体の活動記録を収録するとともに、60 周年記念事業「鼓童網走公演」の記録も収録し、文化連盟の今後の活動の礎を確立した。
課 題	文化連盟に加盟する各団体において高齢化が進み、活動の継続性に課題があるが、令和 5 年度に特定非営利活動法人（NPO 法人）化し、組織としての活動の継続性を図っている。
今後の方向性	継続して網走市文化連盟の活動を支援し、網走市の文化・芸術活動の振興を図るが、周年事業への支援は、単年度とする。

(2) 鑑賞機会の充実

項 目	あばしりファミリー劇場の開催支援（継続）
目 的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する「あばしりファミリー劇場実行委員会」が行う事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、感性豊かな人格形成をめざす。
取組実績	実施主体：あばしりファミリー劇場実行委員会 ■「わくわく！ドキドキ！パフォーマンスショー」（大道芸パフォーマンス） ・開催日時 10月14日（月・祝）14:00～15:30 ・会 場 エコーセンター2000 エコーホール ・入 場 料 一般500円（4歳以上） ・入場者数 265名
成 果	3人の大道芸パフォーマンスショーを開催し、普段、網走では見ることのできない鑑賞機会を通じて、親子で舞台芸術を楽しむ場を提供した。
課 題	少子化が進む中で、親子で楽しむことのできる舞台芸術の鑑賞機会を市民実行委員会により企画実施していくことが必要。
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民実行委員会でも運営方法を検討しながら実施しており、引き続き支援を行う。

項 目	アトリウムロビーコンサートの開催（継続）
目 的	エコーセンター2000の来館者に気軽な鑑賞機会を提供し、市内の音楽活動家や団体の活動発表の場となるよう、アトリウムロビーを活用したコンサートを開催する。
取組実績	①網走吹奏楽団（4/27）11:30～12:30 聴衆数100名 ②オホーツク岳風会網走支部（7/6）11:00～12:00 聴衆数50名 ③歌の好きな人たちによる歌のコンサート（7/20）11:00～11:40 聴衆数40名 ④合唱団あばしり（7/27）11:30～12:15 聴衆数30名 ⑤網走はまなす女性合唱団（9/21）11:30～12:15 聴衆数60名 ⑥網走のシンガーソングライター伊藤正範（11/9）11:30～12:30 聴衆数30名 ⑦網走小学校ブラスバンド（12/21）11:30～12:00 聴衆数90名 ⑧網走第二中学校吹奏楽部（3/16）11:30～12:00 聴衆数50名
成 果	令和6年度は、8つの団体・個人のロビーコンサートが企画され、音楽や合唱などの愛好者の発表機会の場となり、市民にも音楽などに気軽に触れる機会を提供できた。
課 題	ロビーコンサートは、アトリウムロビーでの開催となるが、アトリウムロビーはエコーホールと予約が連動しており、エコーホール利用時は活用できない状況にある。令和6年度はエコーホールの週末利用率が高く、秋から冬にかけては、アトリウムロビーの空きがない状況となり、結果として昨年度の実施回数を下回る結果となった。
今後の方向性	音楽愛好家や団体、サークルが気軽に活動成果を発表できるよう情報提供を行う。

項 目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の開催（継続）
目 的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れ、オホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	<p>①劇団イナダ組「パラドックス外伝～アヒル小学校女子伝説～」（演劇公演）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 8月10日（土）18:30～20:15 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・出演者 劇団イナダ組（特別出演：南ヶ丘高校演劇部、K3 ダンスカンパニー） ・入場料 一般2,500円、高校生以下1,500円（当日券各500円増） ・入場者数 253名 ・市民協力 ホールボランティア9名、イナダ組公演実行委員会9名（市民企画団体） <p>②澤田知可子&VOICE Joint Live in ABASDHIRI（ジョイントコンサート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 10月19日（土）18:00～20:00 ・会 場 エコーセンター エコーホール ・出演者 澤田知可子、VOICE（別所秀彦、別所芳彦） ・入場料 一般2,500円、高校生以下1,500円（当日券各500円増） ・入場者数 365名 ・市民協力 ホールボランティア9名、網走VOICE友の会9名（市民企画団体） <p>③土田英順チェロコンサート（能登半島地震チャリティーコンサート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 11月30日（日）11:30～12:30 ・会 場 エコーセンター アトリウムロビー ・入場料 無料 ・入場者数 110名 ・市民協力 ホールボランティア2名 <p>④親子クラシック 2024「クラデビ♪赤ちゃんと一緒にクラシックデビュー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 1月17日（金）19:00～19:45、1月18日（土）10:30～11:30 ・会 場 1/17 エコーセンター アトリウムロビー 1/18 エコーセンター エコーホール ・出演者 斉藤祐太（ヴァイオリン）、五十嵐彩子（フルート）、村上理依（ピアノ） ・入場者 195名（1/17：51名、1/18：144名）
成 果	令和6年度は、久しぶりの演劇公演を含めた市民企画提案事業を2公演実施し、市民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供することができた。
課 題	市民ニーズの把握を行い、優れた芸術鑑賞の提供を行うため、市民の企画提案を取り入れながら事業の推進を図る。
今後の方向性	ホールボランティアや市民企画団体など、市民との協働により事業運営を図り、優れた芸術鑑賞機会を市民に提供する。

項 目	ふるさとアーティストフェスティバル（拡充）
目 的	網走市にゆかりのあるアーティストに発表の場を提供し、市民との交流を深め、様々なジャンルの優れた芸術文化のアーティストの活動拠点となるような環境づくりを目指す。
取組実績	<p>2024 ふるさとアーティストフェスティバル in ABASHIRI Vol 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 12月3日（火）～8日（日） ・開催内容 <ul style="list-style-type: none"> ①アーティスト作品展（12/3～8、展示室） ②ロビーパフォーマンス（12/7、アトリウムロビー、10:30～12:00） ③ステージ公演（12/7、エコーホール、13:30～16:30） ④市民交流（12/6 大澤哲也&アルビオ、12/8 トロンボーンカルテット ワークショップ・にじいろ音楽祭出演） ・入 場 料 共通 500 円（販売枚数 338 枚） ・入場者数 1,327 名（約 1,400 名来場） （展示 859 名、ステージ公演 300 名、ロビーパフォーマンス 150 名、 ワークショップ 18 名）
成 果	令和6年度は、これまで出演のなかった若手アーティストを中心に、作品展・ステージ公演を行い、来場者数延約 1,400 名を記録した。
課 題	市内の別の行事との連携やふるさとアーティストの地域での活動など、市民や出演者などの意見を取り入れた長期的な視点での実施方法を検討する必要がある。
今後の方向性	市民とふるさとアーティストとの交流を通じて、市民に芸術文化に対する意識の高揚を図るほか、アーティストには活動拠点となるよう取り組みを進める。

(3) 美術館の充実

①所蔵作品の展示

項 目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする所蔵作品の展示（常設展）（継続）
目 的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 284 日 観覧者数 高校生以上 2,325 人 中学生以下 223 人 合計 2,548 人
成 果	郷土出身作家や地縁作家の作品を公開することができた。
課 題	新収蔵作家・作品の紹介など、広く広報する必要がある。
今後の方向性	今後も郷土出身作家等の作品収蔵に努め所蔵作品の充実を図り広く郷土作家を紹介していく。

項 目	所蔵作品展（継続）
目 的	美術館所蔵作品を特別展示し広く紹介する。
取組実績	・会 期 所蔵作品展 4月11日～4月28日(16日) 現代作家コレクション展 2月7日～3月2日(19日) 上野山清貢・松樹路人展 3月8日～4月6日(24日) ・観覧者数 高校生以上 459 人 小中学生以下 29 人 合計 488 人
成 果	新収蔵作品の展覧会に多くの観覧者が訪れた。
課 題	特になし。
今後の方向性	常設展に加えテーマを決めて所蔵作品を広く紹介していく。

②企画展の開催

項 目	『遠藤彰子挿絵の世界展』の開催（新規）
目 的	洋画家・遠藤彰子が新聞連載小説の挿絵を担当した作品を紹介する。
取組実績	・会 期 5月3日～6月23日(45日間) ・観覧者数 高校生以上 368 人 小中学生以下 16 人 合計 384 人 ・関連事業 ギャラリーツアー 5月3日 35 人
成 果	著名作家による挿絵展に多くの観覧者が訪れた。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も、優れた作品を紹介してゆく。

項 目	北海道教育大学岩見沢校油彩画研究室展『深緑の向こうに』の開催 若手アーティスト作品展示事業（新規）
目 的	若手アーティスト事業と連動し、学生・OBの若き作家を紹介する。
取組実績	・会 期 8月11日～10月17日(58日間) ・観覧者数 高校生以上 566 人 小中学生以下 46 人 合計 612 人 ・関連事業 ギャラリートーク 8月25日 28 人
成 果	道内の若き作家や学生の作品を紹介できた。
課 題	特になし。
今後の方向性	これからの作家を応援する作品展示をこれからも開催していきたい。

項 目	-石を研ぐ- 『平田隆宏』 (新規)
目 的	国内外で活躍する石を素材とした彫刻表現を広く紹介する。
取組実績	・会 期 11月12日～12月22日 (35日間) ・観覧者数 高校生以上283人 小中学生以下64人 合計347人 ・関連事業 ギャラリートーク 11月12日 20人
成 果	固い素材による作品に多くの観覧者が訪れた。
課 題	作品が大きく重たいため輸送方法・展示方法などに注意が必要である。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していく。

③移動展の開催

項 目	第65回北海道書道展 網走移動展の開催 (継続)
目 的	第65回北海道書道展の移動展を開催し、書道作品を広く紹介することで、『書写』から芸術表現での『書』への移行を紹介する。
取組実績	・会 期 7月13日～8月4日 (20日間) ・観覧者数 高校生以上217人 小中学生以下17人 合計234人 ・関連事業 解説会・揮毫会 7月14日 43人
成 果	道内最大級の書による公募展作品を紹介できた。
課 題	日本の毛筆文化が日常的ではなくなり衰退することを危惧している。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項 目	第71回写真道展 網走移動展 (継続)
目 的	北海道内の写真公募展である『第71回写真道展』移動展を開催し、写真作品の鑑賞機会を提供する。
取組実績	・会 期 1月4日～1月26日 (20日間) ・観覧者数 高校生以上189人 小中学生以下15人 合計204人 ・関連事業 解説会・佐々木砂宗さん 1月18日 20人
成 果	道内最大級の写真公募展を紹介できた。
課 題	市内から写真道展への出品が少なく、鑑賞者が伸び悩む状況である。
今後の方向性	写真の普及のため継続して、移動展を開催していく。

④講座・教室の実施

項 目	オホーツク・アートセミナー (美術部門) の支援 (継続)
目 的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術への関心を高めるとともに、技術の向上を図る。
取組実績	日本画講座 (日本画の制作) 2月15日・16日 参加者 27名 版画講座 (シルクスクリーン) 3月22日・23日 参加者 16名
成 果	日本画の技法を体験し制作できた。 写真製版シルクスクリーンを体験できた。
課 題	特になし
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項目	講座・ワークショップ（新規）
目的	様々な技法を体験するワークショップ。
取組実績	ティラノザウルスに色を付ける 5月5日 参加者 8人 シルクスクリーン講座 8月1日・2日 参加者 15人 目玉のあるフィギュアを作る 10月26日・27日 参加者 17人 仕掛け絵本を作ろう 3月8日・15日・29日 参加者 12人 合計 52人
成果	参加者は様々な技法を理解することができた。
課題	特になし
今後の方向性	展示作品の理解や、創作活動を促すために継続していく。

項目	出張美術館の実施（継続）
目的	学校等に出張して作品を展示、鑑賞してもらうことで、児童・生徒・学生の美術に対する興味・関心の高揚を目指す。
取組実績	第五中学校 7月2日～7月12日（9日間） 54人 南小学校 8月23日～8月30日（6日間） 266人 東小学校 9月3日～9月10日（6日間） 74人 網走小学校 10月1日～10月9日（9日間） 281人 白鳥台小学校 10月9日～10月16日（6日間） 52人 西小学校 10月29日～11月6日（6日間） 128人 第三中学校 11月6日～11月14日（7日間） 328人 第四中学校 11月14日～11月21日（6日間） 73人 中央小学校 11月21日～11月28日（6日間） 170人 呼人小中学校 1月28日～2月4日（6日間） 32人 女満別中学校 2月4日～2月12日（6日間） 149人 第二中学校 3月4日～3月19日（12日間） 172人 合計 1,779人
成果	多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供できた。
課題	今後も、実施時期・期間について、学校との調整を充分に行う必要がある。
今後の方向性	今後も継続して多くの学校で開催していく。

項目	研修等の受入（継続）
目的	職場体験や校外学習の受入を行い、美術館を身近に感じてもらう機会を設け、美術活動の普及拡大を目指す。
取組実績	講座 高校生オープン講座 通年 4名 見学 東京農業大学、クリオネ学級、北海道教育大学岩見沢校、札幌大谷大学、第二中学校、網走幼稚園、呼人中学校、第五中学校、若葉幼稚園など 博物館実習 1月15日～13日（5日間） 延べ40名 職場体験 第二中学校職場体験 7月11日・12日 11名 第一中学校職場体験 9月17日～19日 8名 第三中学校職場体験 9月19日 5名
成果	多くの鑑賞者、研修の受入を行い、美術館を広く知ってもらう機会となった。
課題	特になし。
今後の方向性	今後も鑑賞学習や職場体験などを積極的に受入していく。

(4) 博物館の充実

項目	特別企画展「昭和時代後半の暮らし展」の開催（新規）
目的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和7年2月1日～3月30日 ・入場者：1,545名 ・関連事業：展示説明会 2月16日 参加者：24名
成果	最も賑わいをみせた昭和時代後半の網走の街の様子を紹介できた。
課題	小中学生の見学機会の増加のため、学校との連携が必要
今後の方向性	網走の歩みをテーマとして開催し、市民が郷土の歴史を見つめ直す機会とする。

項目	剥製標本作製（継続）
目的	網走の自然資料を通して、郷土を身近に学び親しむ場を提供する。
取組実績	剥製標本作製 カワラバト、カワヤツメ、ドジョウの剥製3点（博物館展示）
成果	実物の自然資料の収集・公開によって、郷土の自然の豊かさを伝えた。
課題	限られたスペースでの展示方法の研究が課題
今後の方向性	郷土の自然資料の収集・整理及び資料修理等をすすめる。

項目	特別企画展「網走にダンゴムシ？展」の開催（新規）
目的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和6年8月1日～9月30日 ・入場者：1,789名 ・関連事業：ダンゴムシ観察ツアー 8月10日 参加者：25名 展示説明会 8月18日 参加者：20名
成果	近年、網走でも生息が確認されたダンゴムシの生態等について紹介できた。
課題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要
今後の方向性	網走の自然に触れる機会として、テーマを変えながら開催していく。

項目	観察会・学習会等の開催（継続）
目的	歴史と自然の学びを通して、郷土への理解と親しみを深める。
取組実績	・観察会・学習会 参加者：331名 15回（歴史4回、動植物6回、天文5回） ・子ども体験教室 参加者：25名 2回（5月11日：鉄棒人形づくり 参加者：15名、 10月12日：立体図鑑づくり 参加者：10名） ・民俗資料収蔵展示施設の一般開放：見学者：91名（8/30～9/1、9/6～9/8）
成果	郷土の自然と歴史の豊かさを具体的に伝えることができた。
課題	開催に係るテーマ及び時期等の研究が重要
今後の方向性	網走の自然と歴史を身近に学べる機会として、一層のPRを進めていく。

5 文化財

(1) モヨロ貝塚の保護と活用

項目	モヨロ貝塚PR事業（継続）
目的	モヨロ文化のPRを図り、街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動の充実（ホームページ、新聞・雑誌等での案内、案内チラシ配布） ・ 案内看板設置（道路等 10 箇所、空港電照看板）及び、出土品展示（市内外 7 箇所） ・ モヨロカレッジの開講（モヨロ文化に係る講義と体験学習の全 4 講座） <ul style="list-style-type: none"> 講座 1 「シャチの骨から学ぶモヨロ人の海獣狩猟」 5 月 3 日 参加者：28 名 講座 2 「モヨロ人の土器づくり」 8 月 3 日 参加者：21 名 講座 3 「モヨロまつり」 9 月 21 日 参加者：354 名 講座 4 「モヨロ文化市民講座」 12 月 8 日 参加者：71 名 <p style="margin-left: 40px;">テーマ：モヨロからはじめる歴史の楽しみ方 講師：山田 哲氏（ところ遺跡の森所長）</p>
成果	モヨロカレッジとしてモヨロ文化を総合的に学ぶ機会を提供できた。
課題	各種の広報活動の検討と観光機関等との一層の連携が必要
今後の方向性	多様な広報活動を一層すすめ、幅広い年代へのモヨロ文化の周知を図っていく。

6 スポーツ

(1) スポーツ施設の整備、利用促進

項目	総合体育館の煙感知器の更新（新規）
目的	経年劣化による誤作動の恐れのある火災報知設備を更新し利用者が安全・快適に利用できる施設整備を図る。
取組実績	煙感知器の交換（58箇所）
成果	施設の整備により、利用者の安全性確保が図られた。
課題	施設の老朽化が進んでおり、施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	総合体育館アリーナの床補修（拡充）
目的	アリーナ床の適切な滑り抵抗の保持と、フロア材の保護のための施設整備を図る。
取組実績	第1体育室のウレタン塗装
成果	施設の整備により、利用者の安全性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の老朽化が進んでおり、施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	陸上競技場、スポーツ・トレーニングフィールドの芝生補修（新規）
目的	カラスの掘り返しにより損傷した芝生を張替え、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	スポトレ多目的グラウンド、スポトレ野球場、陸上競技場の芝生を張替え
成果	施設の整備により、利用者の安全性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	スキー場の圧雪車購入（新規）
目的	老朽化したスキー場圧雪車を更新し、利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	圧雪車（ゲレンデ整備車）の1台の購入
成果	設備の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	圧雪車の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	トレーニング器具の更新（拡充）
目的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	トレーニング室のコードレスバイク 2 台の購入
成果	トレーニング器具の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	トレーニング器具の経年劣化による故障や修理用パーツが廃盤の器具があることから、事故を未然に防ぎ利用者の安全のため計画的な更新が必要である。
今後の方向性	トレーニング器具の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	漕艇競技艇の購入（新規）
目的	スポーツへの参加機会の拡充、合宿、大会での利用による効果的な活用を図る。
取組実績	漕艇競技艇の 4 艇購入
成果	用具の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	漕艇競技艇の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	漕艇場の整備（拡充）
目的	公認要件を満たすローイングコースの整備より、利用者の練習環境及び大会利用の促進を図る。
取組実績	コース及び付帯設備の整備
成果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	屋内ゲートボール場の屋根改修（新規）
目的	破損の見られる屋根を改修し利用者が安全・快適に利用できる施設整備を図る。
取組実績	屋内ゲートボール場の屋根改修工事
成果	施設の整備により、利用者の安全性確保が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項目	スポーツ・トレーニングフィールドパークゴルフ場の休憩施設解体撤去（新規）
目的	屋根材の劣化により破片の落下が見られるため、施設撤去により利用者の安全性の確保を図る。
取組実績	スポーツ・トレーニングフィールドパークゴルフ場の休憩施設撤去工事
成果	利用者の安全性確保が図られた。
課題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	運動公園内の危険木の撤去（新規）
目 的	電線への干渉及び周辺住宅の電波障害の原因となっている危険木を伐採し、運動公園内の安全性維持を図る。
取組実績	運動公園内の危険木の伐採・撤去
成 果	危険木の伐採により、電波障害や倒木被害等の道路や近隣住民への影響がなくなった。
課 題	施設の整備等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

(2) スポーツ活動の促進

項目	各種スポーツ教室の開催（継続）
目的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民硬式テニス教室 4名 6日間 延 19名 ・市民バドミントン教室（秋） 13名 6日間 延 67名 ・市民スキー教室 50名 4日間 延 189名 ・冬休みスケート教室 18名 4日間 延 63名 ・初心者スノーボード教室 13名 4日間 延 50名
成果	子どもから大人まで各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験することができる教室として好評を得ている。
課題	参加者が少ない種目については、そのあり方についての検討が必要である。
今後の方向性	市民ニーズに対応するため、種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に努める。

項目	いきいき健康体力づくり教室の開催（継続）
目的	高齢者が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 教室を開催（教室によって実施回数が異なる） 参加者数 22 名 16 回実施 延 223 名
成果	高齢者の体力維持、健康づくりという点で毎年参加者から好評を得ている。
課題	高齢者が、安全で理解しやすく、一年を通して継続して参加できる教室内容とすることが必要である。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新種目の検討、運営のノウハウを研究しながら継続する。

項目	オホーツク歩くスキーの集いの開催（継続）
目的	市民が気軽に楽しめる冬のスポーツ行事の開催
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和 7 年 2 月 16 日（日） ・会場 道立オホーツク公園「てんとらんど」 ・参加者数 65 名
成果	市民に対して、気軽に取り組める冬季スポーツの普及を図ることができた。
課題	参加者の増加につなげるため、歩くスキーの普及拡大が必要である。
今後の方向性	運動不足になりがちな冬季に気軽に取り組むことができるスポーツの普及を図るため、今後も継続する。

項目	子どもスポーツチャレンジ事業の開催（継続）
目的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上を図るとともに、普段接することのない子どもたちがスポーツを通じて、協調性を身につけることを目指す。
取組実績	参加者数 39 名 11 回実施 延 345 名
成果	運動する機会の少ない子どもたちには、継続的に運動するきっかけとなり、参加者には満足度の高い事業となっている。
課題	子どもたちのニーズの把握や、情報収集・研修が必要
今後の方向性	スポーツ推進委員と新たな種目の導入などについて検討を行い、継続して参加してもらえらるような魅力ある事業としていく。

項目	「夢の教室」の開催（継続）
目的	「夢先生」が自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などについて講演と実技を通じて子どもたちに伝える。
取組実績	市内小学校 9 校（5 年生。一部の小学校では 4～6 年生） 13 コマ 314 名受講 ※対面開催 ※中学校の部を一中で 2 クラス試験的に実施した。 ・9 月 3 日 講師「江原 騎士（水泳）」西小学校、西が丘小学校 ・9 月 4 日 「福田 絢子（フェンシング）」網走小学校、東小学校 ・9 月 5 日 「佐藤 悠介（サッカー）」網走小学校、第一中学校 ・9 月 6 日 「法師人美佳、式田高義（サッカー）」白鳥台小学校、第一中学校 ・12 月 17 日 「高橋 美帆（水泳）」潮見小学校①、南①呼人小学校 ・12 月 18 日 「高橋 美帆（水泳）」中央小学校 ・12 月 19 日 「西脇 雅仁（アイスホッケー）」潮見小学校②、南小学校②
成果	オリンピック出場選手等を「夢先生」として講師に招き、これまでの歩みや体験談等の話を聞くことにより、子どもたちが自分の夢について考える時間を得ることができた。
課題	子どもたちの関心を高めるため、著名な講師の派遣について依頼を行っていく。
今後の方向性	平成 28 年度以降、市内全校で実施しており、今後も継続して実施する。 小学校 5 年生に加え新たに市内全中学 2 年生を対象に夢の教室を実施する。

項目	障がい児・者スポーツ教室の開催（継続）
目的	障がいのある方が、それぞれの状態に応じたスポーツを行うことにより、活動の場を広げるとともに、身体を動かす喜びを体感してもらい、さらには健康増進・体力向上に繋げていく取組を行う。また、スポーツ大会に出場できる選手の育成を目指す。
取組実績	障がい児・者とその家族等を対象としたスポーツ教室の開催 ※新たに偶数月の夜の部について 2 回目を実施（6 月～2 月） 昼の部 12 回実施 参加申込者 43 名 延参加者 210 名 夜の部 17 回実施 参加申込者 25 名 延参加者 177 名
成果	参加した障がい児・者にとって定期的に運動する機会が増え、参加者及び関係者からは好評価を得ている。
課題	障がい児・者スポーツの専門的知識を持った指導者の育成
今後の方向性	スポーツ推進委員と教室の内容を研究し、継続して開催していく。 運営にまだ余力があるため、対象を東オホーツク定住自立圏住民まで拡大する。

項目	日体大連携スポーツ教室の開催（継続）
目的	日本体育大学及び日本体育大学附属高等支援学校と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	令和 6 年 12 月 7 日（土）開催 講師：日本体育大学 陸上競技部短距離コーチ 長島正憲 内容：陸上短距離競技者向けの教室 対象：午前の部 小学 4～6 年生及び指導者、午後の部 中学生・高校生及び指導者 参加者数：58 名
成果	アスリート及び指導者の育成が図られた。
課題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

項目	上手く・速く・力強くなるトレーニングの開催（新規※臨時開催）
目的	桐蔭横浜大学と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	令和6年12月21日（土）開催、講師：桐蔭横浜大学 教授 桜井 智野風 氏 内容：空間認識トレーニングほか 対象：午前の部 小学4年生～中学生以下及び指導者、午後の部高校生以上の市民 参加者数：59名
成果	アスリート及び指導者の育成が図られた。
課題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

(3) 活動組織や指導者の育成

項目	活動組織や指導者の育成（継続）
目的	スポーツ協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子どもたちの育成支援を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域やスポーツ団体との連携（継続） スポーツ協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成の支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数：23 団体 団員数：499 名 指導者数：128 名
成果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、市教委主催のスポーツイベントなども通じ、より良い事業展開が図られた。
課題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題を抱えている。
今後の方向性	各団体及び指導者に対する効果的な支援内容を研究しながら、継続して必要な支援を行っていく。

項目	スポーツ少年団活動支援事業（継続）
目的	スポーツ少年団が全道・全国大会に出場する際の交通費を助成することで、活動経費の負担軽減を図り、子どもたちのスポーツ団体への加入を促進する等、スポーツ少年団活動の充実・活性化を図る。
取組実績	全国大会 6 件 計 1,628 千円 全道大会 14 件 計 4,326 千円 合計 5,954 千円
成果	遠征費助成は、スポーツ少年団の活動支援に大きな効果があった。
課題	学校教育が所管する同様の補助要綱の内容との相違点。
今後の方向性	スポーツ少年団におけるスポーツ振興のため助成を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。学校教育課所管の網走市立中学校体育文化振興費補助要綱と足並みを揃えるため当該事業の要綱を見直し、対象・金額を拡大するほか、新たに参加費・宿泊費を対象とする。

項目	日体大屋内直線走路利用促進事業（継続）
目的	冬季間における陸上競技等のトレーニング施設が不足していることから、日本体育大学附属高等支援学校の屋内走路を活用し、市内のスポーツ団体等の活動の場を広げる。
取組実績	陸上競技 2 団体 利用者 210 名
成果	天候の影響を受けない屋内走路を利用することにより、冬季間のみならず練習内容の充実が図られた。
課題	施設所有者である日本体育大学附属高等支援学校との利用調整が必要。 具体的には①日体大側の勤務時間外での鍵の施錠対応、②日体大が利用しない日程での利用調整、また、その他の課題として③施設内にトイレが無いことが挙げられる。
今後の方向性	関係団体等に継続して周知し、更なる利用促進を図る。 引き続き、利用者の利便性向上のために日体大との協議を継続する。

(4) スポーツ合宿や各種大会の誘致

項目	スポーツ合宿誘致及び受入対策事業（継続）																								
目的	<ul style="list-style-type: none"> 各スポーツ協会・連盟・競技団体、及びトップアスリートへの誘致活動を積極的に実施することにより、合宿誘致を図る。 国内トップアスリートをはじめ多くの競技者の合宿を受入れることにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。 																								
取組実績	<p>【誘致活動】</p> <p>日本陸上競技連盟、日本ラグビーフットボール協会、ジャパンラグビーリーグワン、日本サッカー協会、関東学生陸上競技連盟、各実業団チームを訪問し、また、各種大会での誘致活動を実施。</p> <p>【受入実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>ラグビー</td> <td>3 団体</td> <td>133 名</td> <td>延 1,133 名</td> </tr> <tr> <td>陸上競技</td> <td>39 団体</td> <td>624 名</td> <td>延 5,762 名</td> </tr> <tr> <td>サッカー</td> <td>4 団体</td> <td>115 名</td> <td>延 630 名</td> </tr> <tr> <td>スケート</td> <td>1 団体</td> <td>22 名</td> <td>延 286 名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>9 団体</td> <td>17 名</td> <td>延 188 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56 団体</td> <td>911 名</td> <td>延 7,999 名</td> </tr> </table>	ラグビー	3 団体	133 名	延 1,133 名	陸上競技	39 団体	624 名	延 5,762 名	サッカー	4 団体	115 名	延 630 名	スケート	1 団体	22 名	延 286 名	その他	9 団体	17 名	延 188 名	計	56 団体	911 名	延 7,999 名
ラグビー	3 団体	133 名	延 1,133 名																						
陸上競技	39 団体	624 名	延 5,762 名																						
サッカー	4 団体	115 名	延 630 名																						
スケート	1 団体	22 名	延 286 名																						
その他	9 団体	17 名	延 188 名																						
計	56 団体	911 名	延 7,999 名																						
成果	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。 合宿延べ宿泊人数は、ラグビー3チーム、女子サッカー4チームの合宿により増加し、当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。 アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。 																								
課題	毎年受け入れ人数に多少の増減があるため、安定した合宿者の誘致が課題																								
今後の方向性	引き続きより多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。既存のチームへの誘致活動のほか、2026-27 シーズンから秋春制に移行するサッカーJリーグチームの視察受け入れや誘致活動を積極的に行う。																								

項目	全国・全道大会の開催支援（継続）
目的	全国・全道大会開催を支援することにより、大会の円滑な運営を図るとともに、各種目の競技力向上と普及、さらには地域の活性化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ホクレン・ディスタンスチャレンジ網走大会（継続） 関東学生網走夏季記録挑戦協議会（継続） 北海道学生野球春季・秋季リーグ戦（継続） 高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会北海道大会（継続） 網走地方剣道大会（継続） オープンヨットレース北海道シリーズ（継続） 道東ジュニア室内水泳競技大会（継続） 第97回北海道陸上競技選手権大会（新規） 第3回北海道ママさんバレーボールさくら大会（新規） 国民スポーツ大会北海道ブロック予選会少年の部（ボート）（新規） 第60回全国社会人サッカー選手権大会北海道予選大会（新規）
成果	開催された競技ではレベルの高い大会が行われ、競技力の向上と各団体の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課題	大会開催の支援にあたって、事前に大会規模の把握が必要なこと、また、大会数・規模が毎年変動することへの対応。
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化を図るため、今後も支援をしていく。

7 国際化対応

(1) 国際化に対応した教育や人材の育成

項目	英会話指導員の語学指導（継続）
目的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の英会話に触れることで、外国語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園・小学校での英会話指導 小学校： 9校 657時間30分 幼稚園： 5園 69時間10分 一般・サークル支援 22時間 合計 748時間40分 ・英会話指導員：シェイン・ラヤソン（カナダ）平成20年8月～
成果	英会話指導は、教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。
課題	各小学校、幼稚園、保育園での外国語活動への対応について、学校などの関係機関と連携しながら調整を図る必要がある。
今後の方向性	小学校の外国語教育の必修化を踏まえ、子どもたちの英語力を高め、国際理解を深める有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

項目	国際理解体験事業（継続）
目的	幼少期から生の外国語に触れたり、外国の伝統的な行事や遊びを体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<p>■世界を旅しよう！～網走で外国を体験～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 3月1日（土）14:00～16:00 ・会場 エコーセンター 大会議室 ・参加者 22名（市内小学生） ・指導者 北海道文教大学国際交流センター（留学生・学生等9名） モンゴル人3名、中国人3名、日本人2名、教員1名 市内スリランカ人1名 ・内容 モンゴル、中国、スリランカの文化や食習慣などを座学やゲームを通じて体験学習。
成果	令和6年度は、北海道文教大学と網走市との間で包括連携協定が締結されたことから、北海道文教大学国際交流センターの留学生を講師に、留学生の出身国の自然環境や文化などを直接外国人から学ぶ国際理解体験の機会を創出した。
課題	「世界を旅しよう！」については、体験学習指導ができる人材確保が課題となっていることから、連携協定を締結する大学との連携や在住外国人の市民講師の確保など、多角的に検討していく。
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多いことから、引き続き取り組みを推進していく。

項 目	多文化共生推進事業（新規）
目 的	在住外国人を対象に、社会教育事業を提供し、網走の文化や魅力を体感してもらうとともに、市民との交流を通じて、互いの文化を認め合い、在住外国人も市民として様々な活動に参加し、地域づくりにも参画できるような環境づくりを進める。
取組実績	<p>■ インターナショナルフェスタ in ABASHIRI 2024（協力：JICA）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 5月26日（日）10:00～15:00 ・開催会場 エコーセンター エコーホール・アトリウムロビー ・開催内容 そば打ち体験、茶道体験、書道体験ほか ・参加者数 約500名（内外国人数約130名） <p>■ 網走の冬を楽しむバスツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 1月26日（日）9:00～16:30 ・開催会場 エコーセンタークッキング室、網走神社、オホーツク流水館、北海道オホーツク公園（てんとらんど） ・開催内容 網走の歴史、自然、郷土料理、ウィンタースポーツ（クロスカントリー）を学習・体験してもらう機会を提供。 ・参加者数 27名（韓国1名、フィリピン2名、中国24名）※抽選の結果 ・応募者数 52名（韓国3名、フィリピン9名、中国40名）
成 果	事業初年度として、市民と在住外国人の交流機会の創出、在住外国人を対象とした学習機会の提供を視点を、2つの事業を実施し、参加状況や参加者アンケートから概ね好評を得た取り組みとなった。
課 題	外国人が参加できる事業を市のホームページや公式 SNS などを通じて周知しても、外国人の目に止まらないといった課題があるため、外国人が務める企業や所属する団体を通じて情報提供を図っている。外国人向けの情報提供について課題がある。
今後の方向性	年々増加する外国人に対し、事業周知と事業参加を働きかけ、市民と外国人との相互理解を深める取り組みを通じて、共生社会の実現を進めていく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員の就任状況

教育長：岩永 雅浩（令和 3年 4月 1日就任）
 委員：佐々木砂宗（令和 4年 3月23日就任、職務代理 令和6年10月1日就任）
 池田 真哲（令和 5年 3月22日就任）
 鴻巣知香子（令和 6年 4月 5日就任）
 新谷 正樹（令和 6年10月 1日就任）

2 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議(教育委員会議)は、定例会のほか、必要がある場合には臨時会を開催し、教育委員会の議決を要する案件(議案)について審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

令和6年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年1月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席委員数	案 件	審議結果
1	令和6年 4月1日	3名	議案第1号 網走市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	原案可決
2	令和6年 4月25日	3名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第2号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	原案可決 " "
3	令和6年 5月30日	4名	議案第1号 令和6年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 財産の取得について 議案第3号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第4号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第6号 網走市社会教育委員の委嘱について 議案第7号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第8号 網走市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第9号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第10号 網走市美術館協議会委員の委嘱について 報告第1号 網走市学校施設等改修計画について	原案可決 " " " " " " " " " " 報告承認
4	令和6年 6月27日	3名	議案第1号 学校職員の処分内申について 議案第2号 網走市社会教育委員の委嘱について	原案可決 "
5	令和6年 7月30日	3名	議案第1号 網走市立小学校及び中学校通学区域に関する規則の一部を改正する規則制定について 報告第1号 網走市社会教育推進計画について	原案可決 報告承認

6	令和6年 8月19日	4名	議案第1号 令和7年度中学校教科用図書および小中学校特別支援学級教科用図書（一般図書）に係る採択について 議案第2号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃
7	令和6年 10月1日	4名	報告第1号 教育長職務代理者の指名について 報告第2号 学校職員の処分について	報告承認 〃
8	令和6年 11月21日	4名	議案第1号 令和6年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の公表について	原案可決 〃
9	令和6年 12月12日	4名	議案第1号 令和7年度教育予算の要求について 議案第2号 いじめ防止対策推進法第28条第1項各号に規定する重大事態に関する調査報告書の公表基準について 報告第1号 令和6年度サン育英奨学金奨学生の採用内定について	原案可決 〃 報告承認
10	令和6年 12月19日	3名	報告第1号 網走市いじめ問題調査委員会（令和5年3月21日設置）からの答申について	報告承認
11	令和7年 1月6日	4名	議案第1号 令和6年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 学校職員の処分内申について	原案可決 〃
12	令和7年 2月14日	3名	議案第1号 令和6年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 令和7年度教育予算について 議案第3号 令和7年度教育行政推進方針について 議案第4号 令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」の公表について 議案第5号 網走市いじめ問題等対策連絡協議会委員の委嘱について 報告第1号 学校職員の処分について	原案可決 〃 〃 〃 〃 報告承認
13	令和7年 3月6日	3名	議案第1号 令和6年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市奨学資金貸付条例施行規則の一部改正について 議案第3号 第3期網走市立学校における働き方改革推進プラン【第3期】の策定について 議案第4号 第5次網走市子どもの読書活動推進計画の策定について 議案第5号 令和7年4月1日付校長人事の内申について 議案第6号 令和7年4月1日付教頭人事の内申について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃
14	令和7年 3月26日	3名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第2号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 令和7年4月1日付校長・教頭人事について	原案可決 〃 報告承認 〃

※上記のほか、協議会・話し合い等も開催している。

3 その他の主な活動

(1) 各種会議への出席等

教育委員は、教育委員会会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行うほか、入学式や卒業式、二十歳の集いなどに出席している。

区分・会議名		出席者	時期
オホーツク 管内教育委員会 協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会	教育長他	令和6年7月8日
	教育委員大会（網走市）	教育長他	令和6年12月4日
	教育長研修会（紋別町）	教育長	令和6年10月7日
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（北見市）	教育委員	令和6年8月22日
	教育長会春季総会（苫小牧市）	教育長	令和6年5月15日
	教育長会秋季総会（深川市）	教育長	令和6年11月13日

※上記のほか、各種の会議・研修会等にも出席している。

(2) 教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

令和6年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

<案件以外で説明したもの>

- ・行政事務報告（市議会に係る報告を含む）
- ・各種会議・行事・イベント等の開催案内（毎月）
- ・学校経営報告について（毎月）
- ・いじめ問題について（随時）
- ・学校施設等のあり方について（随時）
- ・中学校部活動の地域移行について
- ・教職員の事故等について

4 教育委員による自己点検

令和6年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

(1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。

- ・ 校長会・教頭会や学校行事における意見交換などの機会は、各学校や地域の実情を把握することができ、また、学校図書の有在り方、教職員の働き方改革、人口減少時代の学校の配置、デジタル端末の利活用など、教育行政に関する有益な示唆を得ることができることから、今後も各種行事はもちろんのこと、意見交換の場への積極的な参加に努めます。
- ・ 各小中学校ともに様々な問題を抱えていることと思います。我々教育委員が、学校に向き、学校の空気感や雰囲気などを把握することが大事だと考えます。オープンスクール等の開催情報などを確認し、実際に学校に赴き、学校との連携を図りたいと思います。
- ・ いじめ問題について、問題が発生してしまった際に、教育委員会と学校との密な連携、迅速な対応が重要な鍵になると考えますが、未然に防ぐという観点で考えると教育委員会、学校、家庭（保護者）、地域の人々との連携が重要になってくると思います。オープンスクール、参観日、コミュニティ・スクール等、様々な場面でいじめ根絶の意識共有を図り、子どもたちが安全で健やかな学校生活を送れるよう努めます。
- ・ 学校教育においては、ますます地域社会との連携が必要な時代になってきたと思います。社会の良識を数多く学ぶためにも、地域の方々とのふれあいは子どもたちにとって必要であるため、先生方のみならずコミュニティ・スクールへ参加される地域住民の方々と教育委員会が想うベクトルを一致させることが大切と考えます。
- ・ 高校の有在り方検討会議に関わることにより、市内高校の現状や課題を把握できました。今後も少子化時代に求められる学校教育の体制整備に努めてまいります。

(2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。

- ・ とてもよい取組が多く行われており、より多くの市民の皆さんに知っていただくための情報発信の有在り方を検討します。
- ・ スポーツ合宿・芸術文化合宿誘致活動は公演会や大会の市民の観覧にもつながり、芸術文化の発展、経済活動はもちろんのこと、子どもたちの教育にも大きく寄与しているものと考えます。一方で、友好都市交流や観光事業など、教育性の高い事業が他部署で行われており、部門間の垣根を超えた協力により、更に意義や効果の高いものになると考えます。
- ・ 社会人に対する学びの企画はよく活動されていると思います。受益者である参加市民の数をさらに膨らませるための広報活動が必要と思います。どのような情報発信がよいのかこれに重きを置いて取り組んでいければと思います。
- ・ 社会教育では、様々な楽しく新しい企画で市民に向けた学びの場を作っていると思います。継続が活きてくる内容、新たなトレンドとなっている内容と多々あると思いますが、参加者を増やす効果的な広報活動ができるとよりよくなると思います。
- ・ 毎年開催している「子ども会議」において、初の試みとして農大生のファシリテーターを入れたグループ討議が行われましたが、とても良い進め方だと感じましたので、今後も継続していただきたいと思います。また、参加したことのない子どもも含め網走市内の子ども達全員が関わり、当事者感を持てる取組が必要であると考えます。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・市民や児童生徒が健康で安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭・学校と連携を強化し、取組を引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思います。

(4) 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身につけさせるとともに、心の教育の充実に努めたい。

- ・児童生徒の学力向上に関しては、諸先生方の努力の結果が出てきたと感じています。更なる向上と、引き上げてきた現状を今後維持していくための取組が必要であると思います。
- ・児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増えるとよいと思います。また、道徳の時間の授業公開も更に発展させてほしいと思います。
- ・心の教育・道徳については、家庭での協力が重要だと感じておりますので、学校から家庭への働きかけ等を通して、学校と家庭が一体となり取り組む必要があると思います。
- ・指導上課題のある児童生徒に関しては、学校側が対応しても保護者側に改善が見られないケースも見受けられます。教育委員会、学校、様々なファクターが連携し、事態が良い方向に向かう体制を構築する必要があると思います。
- ・毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、広報あばしり及び市のホームページにおいて公表していることにより、学校・家庭が一体となって児童生徒の学習への取組が改善され、更なる学力向上につながっていくことを期待します。
- ・引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼保小中高連携の推進、PTA・地域との連携による基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた、更なる取組が必要であると思います。
- ・児童生徒に配布されているタブレットが、授業や学校のプリント等の活用だけでなく、電子図書館を利用できていることは、本を身近なものとして読書量の増加につながっているものと思います。
- ・児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表していることで、学校・PTA・地域が一体となり、更なる体力向上を期待します。また、学力だけではなく、体力についても、学力向上推進委員会と連携を密にし、今後の網走を支えていく子どもたちを育てていかなければならないと思います。
- ・大切な学校教育の人的資源である先生方のメンタルケアを行う仕組みづくりが必要と思われます。精神的、内面的にも医療従事者に相談等できるとなるとよいと思います。また、時間外労働報告も散見されており、今後も先生方の働き方改革が円滑に進むよう注視していきたいと思います。
- ・教育委員会の中でも、学力・体力等の先進的な取組をしているところの視察や研修などを行うことを検討してまいりたいと思います。
- ・スマートフォンやタブレットなどICT機器に触れる機会も以前にも増して増えていると考えます。いわゆる、「ネットいじめ」に対応した道徳教育、特にSNSやゲームの通信機能等を介在した情報モラル教育はもちろん、ITリテラシーの向上を図り、コミュニケーションや情報端末としての有効活用で、学力の向上にも寄与する取組がより一層必要と考えます。

- ・ 近年 I C T機器を使用した授業が増えてきています。先生や生徒はもちろんのこと、我々教育委員も視察などで目にする機会があるため現状を把握することはできますが、保護者や地域の方々に、今、学校で行われている I C T教育がどのようなものかを知ってもらえる機会が増えるとういのではないかと感じています。

(5) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・ コミュニティ・スクールについて、校長会、教頭会などと連携し、地域の方々と学校とのつながりをバックアップしてまいりたいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの会議内容が学校側からの学校経営方針の説明や報告に偏っていると感じますが、学校運営の中でいかに地域の人々に関りを持たせるかということが重要だと考えますので、学校運営に対しコミュニティ・スクールが上手くコミットしているかを知るための中間報告的な機会があるとよいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの話し合いの場において、学校や地域の実情、特徴を改めて棚卸しするよう提案していき、個人の持っている認識、情報を共有することで、議論の活性化、相互理解の深化が図られ、より魅力ある地域づくりにつなげてまいりたいと思います。
- ・ 近年、特性を持つ子どもたちが増えている傾向にあると感じています。対応する先生方も研修や講演会などで色々な知識を得られていると思いますが、専門的な知識や経験を持つスクールカウンセラーの存在が重要だと思いますので、カウンセラーの方々と意見交換や情報交換できる場があるとよいと思います。

(6) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取組をしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・ 教育委員会は教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行うほか、教育委員会の研修会は不登校問題の現状や、部活動の地域展開などの先進的な事例を学ぶ良い機会であることから、今後も積極的に参加するなど自己研鑽に努めてまいります。
- ・ 学校生活において、日々起り得る問題に積極的に取り組んでいる他都市の教育委員会や団体から指導及び情報を得て役立てるよう努めたいと思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。引き続き、他市の教育委員会との意見交換の場への積極的な参加に努めたいと思います。

(7) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・ 毎月開催される教育委員会議の開催日程、会議進行は適切であると感じます。今後も効率よく実施し、必要に応じて協議会などを開催するとよいと思います。引き続き、更に円滑な議事進行となるよう、資料の事前配布や全委員が出席できるよう開催日を調整することが必要であると思います。
- ・ 教育委員会議や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であり、今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対し「なぜ情報発信をするのか」を考え、それを踏まえて「どのようにしていくか」「なにをするのか」を考えることが情報発信に必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。
- ・ これまでに総合教育会議により、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。

- ・ 学校教育施設、社会教育施設の状況を把握するため、可能な限り視察・研修する機会を持ちたいと思います。
- ・ 教育委員会と学校、地域住民、他都市の教育委員会とも連携し、情報交換などの交流を深めていくべきだと思います。
- ・ 各教育計画策定において、わかりやすい表現で広報することが教育委員会活動を市民の皆様にも周知させる第一歩だと思います。
- ・ 教育委員へのタブレット端末の貸与により、教育委員会事務局から送られてくる会議資料等はペーパーレス化されており、悪天候等で参加が難しい場合でもリモート会議での参加が可能となっています。引き続き教育委員会事務局との連絡や、教育委員からの情報発信等でも積極的に活用していきたいと思います。

(8) 学校教育運営のリスクマネジメント支援に努めたい。

- ・ いじめ問題の重大事態案件に関わり、網走からいじめの根絶、いじめをさせないということを徹底するために、教育委員会と学校の密な連携、迅速な対応が必要です。また、具体的にいじめ防止策をどのように行うか、今後、いじめが認知された場合は直ちに報告するように、児童生徒に対するいじめは犯罪の境界にあるということを徹底して教えていく必要があります。私たちも教育委員会事務局のマネジメントを支援し、この問題を不安視する関係者との相互理解ができるよう努めます。
- ・ いじめ問題について、問題が発生してしまった際に、教育委員会と学校との密な連携、迅速な対応が重要な鍵になると考えますが、未然に防ぐという観点で考えると教育委員会、学校、家庭（保護者）、地域の人々との連携が重要になってくると思います。オープンスクール、参観日、コミュニティ・スクール等、様々な場面でいじめ根絶の意識共有を図り、子どもたちが安全で健やかな学校生活を送れるよう努めます。（再掲）
- ・ 不登校の児童生徒に関しては、学校でしか体験できない様々な学びがあることを考慮しつつ、様々なパートナーと連携し、学びへのアクセスが確保されるべきであると考えますが、都市部と比較し、学校以外の学びの場が十分に整備されているとは言えないことから、学校復帰の要素と居場所づくりに加えて、学びへのアクセスが確保されるよう努めます。
- ・ 小中学校間における授業の連携等は進んでいると思いますが、小学校において指導上課題のある児童について、小中学校相互でしっかりと情報共有・連携が図られるよう支援に努めます。

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（令和7年8月1日）』

網走市教育委員会外部評価委員

【学校教育】北海道教育大学旭川校 学校臨床教授 吉田 昌広

【社会教育】元網走市社会教育委員 岡山 一枝

1 学校教育

1 総評

網走市における教育行政の執行に係る外部評価結果について報告いたします。

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり円滑に実施されていることを確認しました。課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えます。

以下、「大学という教育・研究機関の検証」という視点から、①網走市教育委員会の令和6年度の活動における全体の評価、②学校現場の教育活動を支援するための提言、の2点について報告させていただきます。

2 大学という教育・研究機関の検証

(1) 令和6年度の活動における全体の評価

各学校においては「令和の日本型学校教育」の実現や、「GIGA スクール構想」に基づいた確かな学力の育成に取り組み、豊かな人間性や健やかな体の育成との調和のとれた教育活動が着実に推進されています。さらに、支援が必要な子供に対する教育体制の充実や、道内で先陣を切った取組「学校給食費の無償化」を始めとする家庭・地域との連携、安心・安全な教育環境の実現など、網走市における取組は着実に成果を上げ、道内でも先進的な取組として注目を集めていることを改めて実感しています。

今回の報告では「網走市の教育スタンダード」という観点から1点考察をさせていただきます。以前、網走小学校に勤務させていただいた3年間（令和2～4年度）はまさにコロナ禍で、「子供たちの学びを止めない」という合言葉で学校・保護者・地域が力を合わせて日々前進していた時期でありました。そのような中で、当時のPTA会長から、「工夫を重ねると、それはスタンダードになる」という金口玉言を賜りました。「工夫を重ねる」とは、あきらめる理由を探す前に一歩前進する知恵を出し合うことで、「スタンダード」とは集団における標準、基準のことです。コロナ禍にあつては、それまでの「当たり前」が全く通用せず、何かにつけて「中止」を余儀なくされることが多かったのですが、会長は「中止は後退と同義であり、組織を弱くすること」「揺れ動きながらも最適解を求めて一歩前進することが、これまでの「当たり前」の上に新しい道を創ることができる」と話されました。

このように「スタンダード」というものを改めて考えてみると、学校現場では次の一歩を踏み出す際の「教師と子供の土台」「工夫を重ねてアップデートするもの」と考えることができます。

道内各地の学校を視察する機会をいただいている中で、近年、気になる様子を目にすることが多くなりました。教育活動の中の「授業」について取り上げてみますと、1つ目は、「教室が騒がしくて教師の指示が通らない」「学習規律やルールがばらばら」「他人のすることを我慢して待つことができない」「整理整頓が乱れている」「清掃が行き届いていない」など、これまで一斉指導の下で共通・一貫して取り組まれてきた「学習の土台」が崩れてきていることです。

2つ目は、「これで求められる資質・能力が付くのだろうか」と思える学習の様子

です。特に、一人一台端末を活用して個別に学ぶ学習（学習の複線化）の様子等を省察すると、「そもそも課題把握が不十分」「情報収集といいながらネット情報をコピー＆ペースト」「決まった友達としか協働できない」「個人や集団での思考が浅く、深い学びになっていない」など、「子供が主語の学びを実現する」「子供に学びを委ねる」ために必要な指導が行われていないのではないかと思えるような状況を散見することがあります。一斉指導における問題発見・解決の学習の流れをスタンダードとして、「教師から子供にしっかり指導されていたこと」を子供自身の学びのハンドルにアップデートしてあげることが必要と考えます。

さらに気を付けたいのは、このような状況が小学校段階で見られるようになると、学年が上がるにつれて状況が増幅し、授業だけでなく生徒指導上の問題も増えてくるように思われます。特に、小学校区と中学校区が複雑に組み合わさっている市町村においては、中学校区はもとより、市や町などもっと大きな単位で共有し、足並みをそろえた取組を推進する必要があります。

- 持続性を発揮しながら成果を挙げている道内の例を3つ挙げますと、
- K町（小学校5校・中学校1校）では町全体で「Kプラン」を設定し「学習規律」「学習の基本的な流れ」などのスタンダードに基づいた教育活動が行われています。インバウンドに揺れる地域にあって、6校の教職員が会同する機会を工夫・確保し着実に教育活動を進める連携が特徴です。
 - S市（中学校1校・小学校5校）では市全体で「学習スタンダード（1単位時間の授業展開）」に基づいた取組が行われています。人口数の激減に伴う学校適正配置や義務教育学校の設置など大きな動きの中で、ぶれない教育を目指す取り組みが続けられてきたことが特徴です。
 - A市（中学校32校・小学校59校）では、教育委員会と市教育研究会などの教科部会が連携し、基本的な教科の授業構造や学習の流れをスタンダードとして設定しています。全国学力・学習状況調査では例年北海道の上位に位置するなど数値でも結果を残していることや、すべての中学校区（小小・小中連携）で足並みをそろえた取組が行われていることが特徴です。

昨年度の報告では、お互いの学校（教師も子供も）や保護者にもわかりやすい、①網走市の教育ビジョンのグランドデザイン化、②網走市で育む「学ぶ力」（今回付加：学習のスタンダード）のデザイン化、③ホームページ上での教育情報プラットフォームの設置の3点を挙げ、網走市全体で足並みをそろえた教育活動の推進を進言させていただきました。

教育は学習指導要領の改訂を節目としておよそ10年単位で、内容や取組方が大きく揺れ動いてきた経緯があります。その揺れ動きは、新しいものを生み出すための様々な考えに基づいた取組やその時代のトレンドによるものが大きく、ある意味必然なものと考えられます。現在、学校現場では「GIGAスクール構想」「令和の日本型学校教育」等を踏まえた取組が進められ、まさに大きな揺れが続いているところです。だからこそ、これまで網走市の各学校で積み上げられてきたことをチーム網走としての「スタンダード」として明らかにし、未来への新しい歩みを進められることを改めてご期待申し上げます。

（2）学校の教育活動を支援する提言

① 「小中学校教材教具費」に係るデジタル化の推進について

授業を行う際、手元に教師用指導書朱書編を参照しながら指導する教師が多いのではないかと推察します。筆者が若手の頃は、朱書編に頼らないで自分で教材研究をするよう叱咤されたものですが、業務や時間に追われる現代の状況においては、

教科書発行者が編集する教師用指導書朱書編を活用することは大きな意義があることから、引き続き予算措置をお願いしたいと考えます。

さらに現在、教科書発行者においては教師用指導書朱書編のデジタル化が進んでいます。教育出版者の例では「デジタル教師用指導書朱書編」が発行されており、特徴としては手元の端末で手軽に閲覧、書き込みや保存ができます。従来の紙製品では校内職員で一定期間共有して使用されることから、書き込みなどは憚られるものでした。現在のデジタル教師用指導書朱書編は、書き込みや保存したものを自分だけのデータとして所有でき、異動先でも引き続き使用できるなど、教材研究を積み重ねできるメリットがあります。今後、教師用指導書朱書編を購入する際に、ぜひ教育委員会や各学校で検討していただきたいと考えております。

また、社会科副読本につきましては、更新時期を迎えた際には、ぜひ同様にデジタル教材としての作成を視野に入れていただきたいと考えます。デジタル技術を活用した資料データ等の効率的な差し替えが可能なることから、更新時期の冊子としての印刷費用軽減に繋がったり、地域学習の際の携帯性、書き込み保存等に優れたりしているメリットがあります。写真や動画撮影など端末の機能と組み合わせた学習効果は大きなものと想像します。近隣の〇町（小学校2・中学校2）教育委員会ではすでに活用の実績があるようです。

② 国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置〕について

文部科学省の指針において、ALTは「言語知識の習得」だけではなく「実践的な言語活動の充実」に寄与する存在と位置付けられています。小中学校の外国語活動及び外国語の授業でALTを活用する意義は、大きく次の4つと考えられます。

○生きた言語体験の提供

- ・教科書だけでは得られない、本物の発音・リズム・イントネーションを体験できる
- ・異文化を背景とするコミュニケーションの楽しさや重要性を実感できる

○異文化理解の促進

- ・ALTはさまざまな国籍・文化をもっていることが多く、それによって児童生徒の視野を広げる
- ・授業や学校行事を通して、多様性の価値を学ぶ機会となる

○教員とのチームティーチングによる指導力向上

- ・日本人教員との協働により授業の幅や表現が豊かになる
- ・教員自身もALTとの連携を通じて英語力や指導力の向上につながる

○コミュニケーション能力育成の支援

- ・正確な文法だけではなく、「伝える意欲」「聞こうとする姿勢」など実用的なスキルを育む
- ・ALTとの交流を通じて、自信をもって英語を使う体験を積む

網走市の小中学校数の規模や各学校への派遣実態を考えると、現行の2名体制で十分まかなえているかどうか、検討が必要ではないかと考えます。管内で似たような規模のM市（小学校6校・中学校3校）では3名のALTが配置され効果を挙げているようです。増員に向けての人員確保と予算拡大の措置を検討されてはいかがでしょうか。

③ いじめ対策事業について

いじめの実態を把握し、未然防止、早期発見・対応に向けた指導・助言を行うと

ともに、児童生徒に対する「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの意識醸成を図ることを重点に掲げ、「いじめの実態調査」やいじめ相談報告アプリ「STANDBY」の導入、問題調査委員会の運営、いじめゼロを目指す講演会の開催などに鋭意取り組まれていることに敬意を表します。

このことについては、「教育委員による自己点検」の項にも記されている通り、未然防止の観点から、教育委員会、学校、家庭（保護者）、地域の人々との連携が大変重要になってくると考えます。具体的には、オープンスクール、参観日、コミュニティ・スクール等、様々な機会において、大人たちが学校・学級内の子供たちの様子を直接目で確かめたり雰囲気を感じたりすること、そして、よさとして認められることはもちろん「おや」「何か違和感があるな」と気付かれたことを率直に学校と意見交換できる場を大切にされることが重要です。

子供たちと大人がいじめ根絶の意識共有を図り、信頼関係を醸成するために、これからも「網走市子ども会議の実施（継続）」のような共同参画できる事業の継続を希望します。

④ 学力向上フォーラムの開催について

「オール網走」で学力の向上を目指し、学校・地域・保護者が一体となった取組の一環として本事業が継続されていることを高く評価します。課題としては、「学校教育への理解を深めるため、地域・保護者の参加者を増やす取組が必要である。」ということが述べられています。

今後はさらにフォーラムで取り扱う内容や形態について一層工夫されるよう希望します。例えば、未来の網走市が目指す教育について、学校の縦軸に横軸を加えた「市内各業界や保護者の代表者」や、過去一現在の時空から考える「網走を巣立った若者や教職員」によるパネルディスカッションを行ったり、生徒の参画で提言を行ったり、市P連行事とのコラボにしたりするなど、内容と参加者の文脈を付けることができれば良いのではないかと考えます。

⑤ 小中学校へのエアコンの整備について

夏季の猛暑によって教室が高温になり、授業の実施はもちろん、子供たちの生命や健康への影響が懸念されることから、全道に先駆けて多額な予算を措置し各小中学校にエアコンを整備されたことは、高く評価できると考えます。今後はさらなる気候の変化で、屋外体育場（グラウンド）や学校で行うプール授業が猛暑で使用できないなど様々な支障が起きる可能性があります。そのため、

○猛暑時に屋外体育場の代わりに使用する体育館の冷房をどうするか。市民体育館などの活用ができないかどうか。ただし、網走市の災害時避難所となっている学校体育館については、別の枠組みからの財政活用で冷房の整備ができないかどうか。

○現在使用されている学校のプールをそのまま修繕するのか。市民プールの活用を増やしたり、使用する学校プール数を縮小・改修して複数の学校で使用したりすることができないかどうか。

管理面の負担軽減や財政的な面も併せて調査研究されることを希望します。

3 結び

結びに、網走市は豊かな自然に囲まれ、ひと・もの・まちが輝く健康都市と謳われています。その中で教育の担う「ひとづくり」に対して、幼・小・中・高・大学がそろい、教育関連の施設や地域の人々に恵まれているという網走市の大きな強みを生かさない手はありません。今後も教育を担う教育委員会と学校、保護者地域が一体となり、子供たちの夢と網走市の未来が地域で結実する「網走市の教育」を実現していかれるようご期待を申し上げます。

2 社会教育

1 社会教育事業の評価の視点

社会教育事業は、「社会教育長期計画」に基づき、毎年、各課・館が推進計画を策定し、それに従い事業を進めています。令和6年度も市教育委員会が定める「社会教育長期計画」に基づき、どのように社会教育事業が展開されたかを評価の視点に持ち、以下のとおり事業評価をさせていただきます。

2 各事業項目の評価について

(1) 生涯学習について

- ・ 市民の生涯学習のきっかけづくりを目的に実施される「まなび塾フェスティバル」は、令和6年度は、来場者数、ボランティアを含む参加スタッフ数とも前年度を大きく上回り、盛況に開催されました。今後も「誰もが楽しく学び続けるきっかけ」を創出するイベントとして、創意工夫のもと継続されることを希望します。
- ・ 「図書管理システム機器等更新事業」にて、蔵書登録や利用者登録、図書検索などを行う機器の更新が行われました。計画的な機器更新を通じて、利用しやすい図書館の維持に今後も努めて下さい。
- ・ 子どもたちが読書活動を通して、豊かな感性や想像力を育むことを目的とした「第5次網走市子どもの読書活動推進計画(通称:あばしり子ども読書プラン)」(R7~11年度)が新たに策定されました。計画に盛り込まれている「みんなで読書」「楽しく読書」「どこでも読書」が一層推進されるよう期待します。
- ・ 建設後24年が経過したエコーセンターにおいて、計画的に空調システムの更新が図られるとともに、自動ドアや展示室クロスの張替えなどが実施されました。今後も利用者が安全・安心に利用できる施設の維持をお願いします。

(2) 社会教育について

- ・ 「あばしり学講座」では、歴史や文化、産業などをテーマに様々な講座が企画され、地元の企業や農業・漁業者などの協力を得て、事業が実施されています。市民や企業などと連携・協力し事業を推進することは、地域づくりを進める上でも大切な視点だと思いますので、今後もそのような取組みを推進されることを期待します。
- ・ 「放課後子ども教室推進事業」や「学校支援地域本部事業」、「まちの達人出前事業」などの事業は、子どもを地域全体で育む大切な事業と認識しますので、今後も協力団体や市民ボランティアの確保を通じて事業の継続をお願いします。
- ・ 令和6年度より「学生ボランティア支援事業」が開始されました。市民ボランティアの高齢化や減少に対し、学生ボランティアを育成する視点で事業に取り組まれ、初年度は121名の学生登録者の確保がなされ、延べ310名の参加があったとのことです。学生ボランティアの育成を通じて、長期的な視点で人づくり、地域づくりにつながることを期待します。
- ・ 「子ども夢育事業」では、料理人として世界的にも著名な三國清三氏を講師に事業が実施されました。また、「暮らしをデザイン講座」では、キャンプの魅力を伝えるとともに、災害時に役立つ取組みについての講座が実施されています。著名な講師や魅力ある講座を子どもや市民に向けて開催することは、学びを深める上でも大切なことだと思いますので、今後も限られた予算の中で満足度の高い講座が企画されることを希望します。

(3) 家庭教育について

- ・ ライフスタイルの多様化や核家族化、少子化など、子どもを取り巻く環境が変化している中で、子育て世帯を対象とした「幼児を育てる子育て講演会」を、子育て支援課と連携し開催されています。今後も子育て世帯向けの講座が継続され、子育てしやすい環境づくりが進められることを願います。
- ・ 父母と先生の会連合会（PTA 連合会）と連携し、「家庭教育学級」や「家庭教育フォーラム」が開催されています。令和6年度は性をテーマとしたフォーラムが開催されました。家庭ではなかなか取り組むことのできないことを、家庭教育学級や家庭教育フォーラムで取組まれていることを評価します。
- ・ 網走市子ども会連合会や網走市豊かな心を育てる活動推進会議の活動支援を通じて、網走の子どもたちの健全育成を目的とした事業が推進されています。地域の大人や関係団体が協力して、子どもたちを健全に育成する取り組みはこれからも大切にしたい取り組みと思いますので、今後も継続した支援を期待します。

(4) 芸術文化について

- ・ 「芸術文化合宿推進事業」の取り組みを通じて、令和6年度は8団体304名の合宿受入の実績があったと報告されています。演奏会や成果発表展、ワークショップなどを通じて、市民交流も盛んに行われているようです。毎年、同じ団体の受入を行うことは難しいかもしれませんが、様々な団体の受入と市民交流を通じて、市民の芸術文化の意識の高揚、合宿団体にとっては網走が関係の深い地となることを期待します。
- ・ 令和6年度は、NPO法人網走市文化連盟が設立60周年を迎え、設立60周年事業に対し補助が行われました。文化連盟に加盟する団体の高齢化や加盟団体数の減少が課題となっていると伺っています。様々な取り組みへの支援を通じて、文化団体が今以上に活性化され、市の芸術文化の振興に寄与されていくことを期待します。
- ・ 「オホーツク・文化交流センター芸術文化事業」では、市民団体から企画提案のあった2公演と市が企画した2公演の計4公演が実施されました。市民企画提案では、演劇公演とジョイントコンサートが実施され、多くの市民の方に来場していただいているのが伺えます。今後も市民ニーズの把握と市民団体と連携した取り組みを通じて、優れた芸術鑑賞機会を市民に提供されることを期待します。
- ・ 令和6年度は「ふるさとアーティストフェスティバルVol.5」が開催されました。ステージ公演、ワークショップの開催を通じた市民交流など、期間中に様々な取り組みが展開されています。例年ですと七福神まつり開催に合わせ実施されていましたが、今年は七福神まつり開催時に網走市文化連盟60周年記念事業「鼓童網走公演」が実施されてことから、開催時期を12月に変更し実施したと伺いました。開催時期の固定化は難しいかもしれませんが、市内の他のイベントと連動した取り組みとすることで、事業周知や来場者増につながることも考えられますので、今後もそのような視点で取組まれることを期待します。
- ・ 美術館では、「遠藤彰子挿絵の世界展」、「北海道教育大学岩見沢校油彩画研究室展」、「石を研ぐ～平田隆宏展～」など新規の企画展が開催され、多くの市民に観覧されています。全道で2番目に古い美術館として、その存在意義は十分に認められていますので、今後も魅力ある企画展・展覧会の開催をお願いします。
- ・ 博物館では、特別企画展として「昭和時代後半の暮らし展」、「網走にダンゴム

シ?展」とユニークな企画展が開催されました。文化や自然をテーマに市民に郷土学習や新たな発見の提供を行っています。今後も、市民があつと驚く企画展の開催を期待します。

(5) 文化財について

- ・ 史跡モヨロ貝塚を PR する事業として、「モヨロ貝塚 PR 事業」が実施されています。空港や道路などに PR 看板を設置するとともに、出土品の展示を市内外7箇所で行われています。網走を代表する遺跡の PR を通じて、広くモヨロの魅力が伝わることを期待します。

(6) スポーツについて

- ・ 総合体育館、陸上競技場、スポーツ・トレーニングフィールド、屋内ゲートボール場において、施設改修、芝生補修が実施されました。今後も利用者の声に耳を傾け、計画的な整備を通じて、「北のスポーツ基地」にふさわしい環境づくりをお願いします。
- ・ スキー場において、圧雪車が更新されました。温暖化などの影響により、スキー場の開設期間が短くなってきていることが懸念されますが、利用者の安全性・快適性を考慮した取組みとしますので、今後もそのような視点で取組みを進めていただきたいと思います。
- ・ 元オリンピック選手などを講師に「夢の教室事業」が展開されています。元オリンピック選手が子どもたちに直接授業を行うという取組みは、スポーツに力を入れる網走ならではの取組みとしますので、今後も継続して取り込まれることで、子どもたちにも良い影響をもたらすものと期待しています。
- ・ 「スポーツ合宿誘致事業」を通じて、令和6年度は、59団体911名の合宿受入が行われたと報告されています。昨年度の受入実績を67名上回る実績となり、誘致活動の成果を評価します。今後も安定したスポーツ合宿の誘致を通じて、地域のスポーツ振興やまちのにぎわいづくりにつながるよう、取組みの継続をお願いします。

(7) 国際化対応について

- ・ 「国際理解体験事業」では、令和6年度より、網走市と包括連携協定を締結した北海道文教大学との連携により、北海道文教大学の留学生が講師役を務め、事業が展開されています。外国人講師が子どもたちに自国の文化や歴史、自然や風習など教えるというユニークな事業であり、子どもたちにも良い体験となることから、今後も継続していただきたいと思います。
- ・ 私の周りでも網走で生活される外国人をよく目にするようになりました。増加する在住外国人を対象に、令和6年度より「多文化共生推進事業」が新たに開始されています。市民と在住外国人との交流機会の創設、外国人に網走を学んでもらう機会の提供は、これからの社会教育事業においても大切な視点と考えます。多様な人々への学びの提供という視点でも事業を継続し、異なる文化を持つ人同士が互いの違いを認め合う学びにつながることを期待すると同時に、趣味やサークル活動などを通じて、市民と外国人とが今以上に交流されるようになることを期待します。

3 社会教育事業の総評について

令和6年度の社会教育事業は、「社会教育長期計画」に基づく、各課・館が策定

した推進計画に沿った取り組みが展開されています。特に、ICTやDXを取り入れた講座の展開や、子どもや高齢者に限らず、子育て世帯、障がい者、外国人など、多様な人々への学びの提供が図られ、市民一人ひとりが多様な幸せを感じることでできる学習機会の創出に配慮した事業展開がなされています。

さらに、事業を推進する上では、市民や市民団体、地元企業や大学などの協力連携を通して事業展開が図られています。人口が減り、高齢化が進む社会において、多様な人との結びつきや関わりは、地域づくりを進める上でも重要な視点と認識します。

「社会教育」は、自らの学びを通じて、人と人がつながり、地域課題に目を向け、課題解決のための行動を通じて、豊かな生活を築くための取り組みです。市民が社会教育の様々な事業への参加を通じて、豊かな生活を維持していけるよう、今後も継続した取り組みに期待し総評とします。